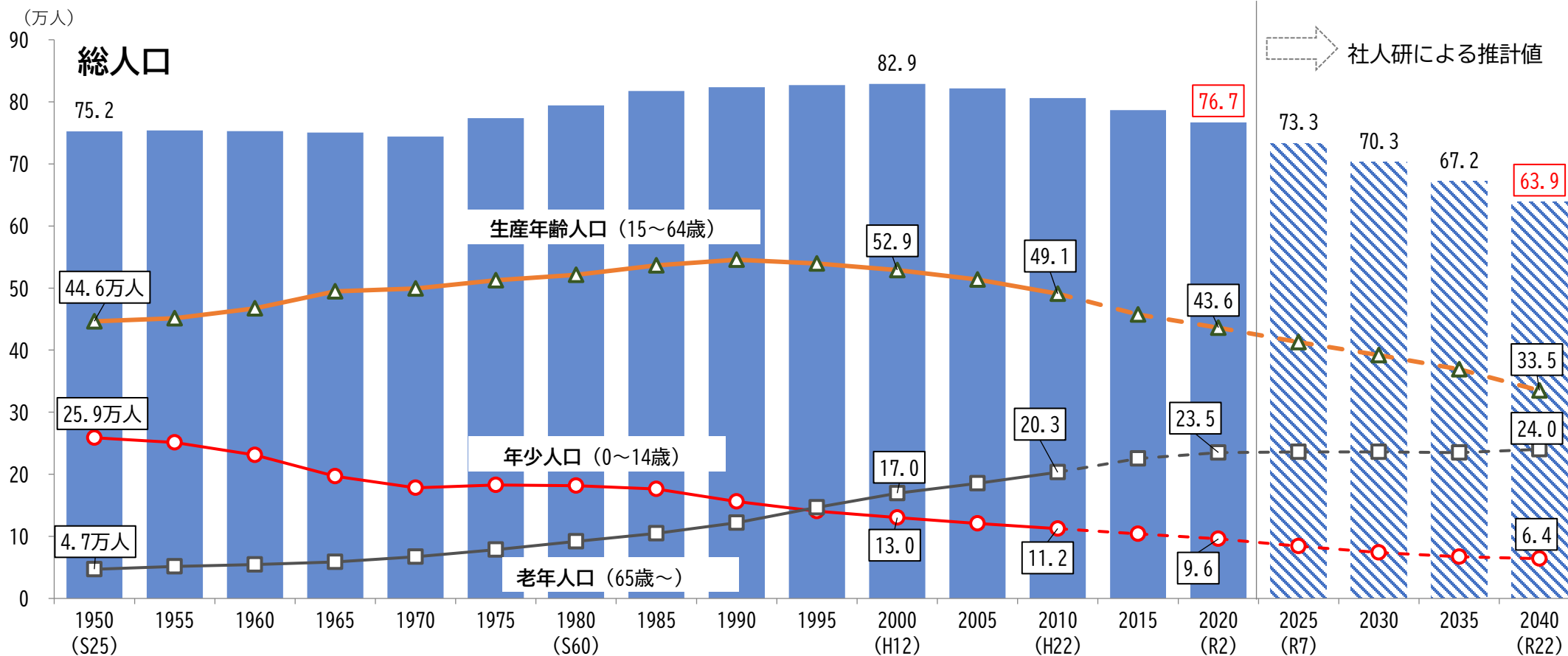


# 福井県の現状データ集

# 福井県 総人口の推移

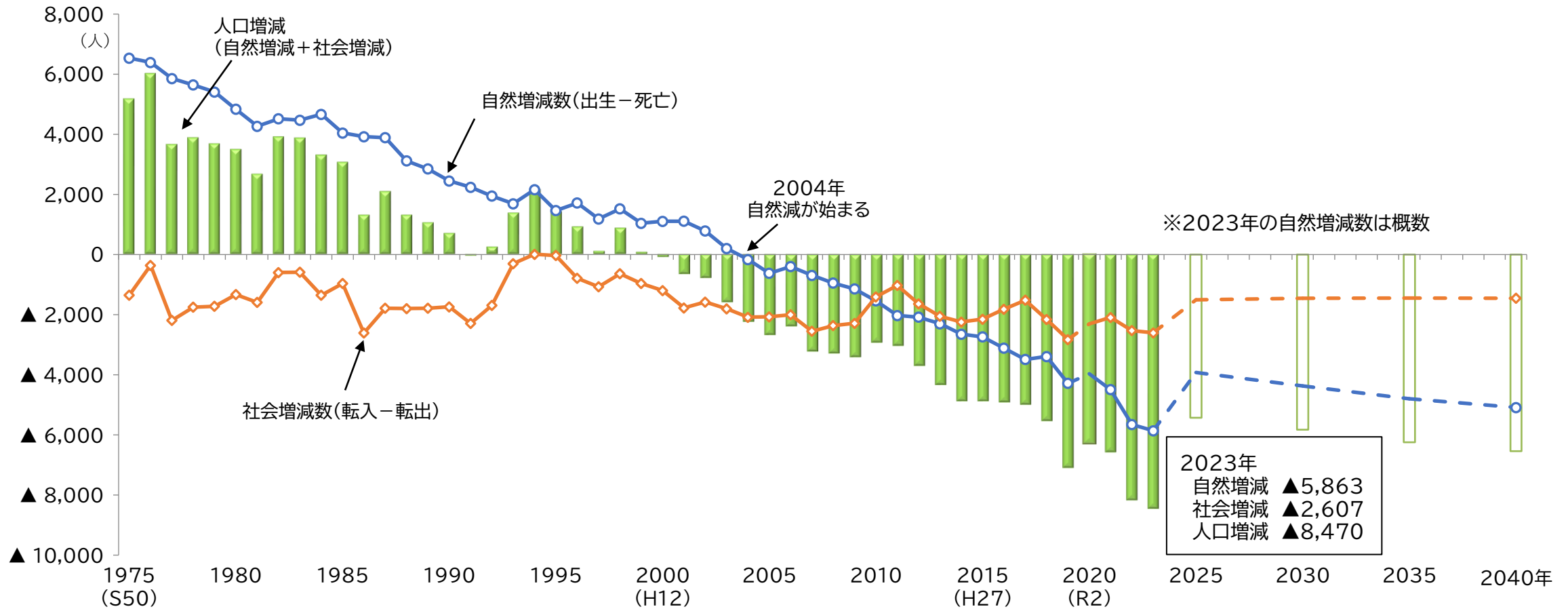
- 2000（平成12）年の82.9万人をピークに本件人口は減少傾向。直近では76.7万人（2020年国勢調査）
- 国立社会保障・人口問題研究所（社人研）による推計では、2040年には63.9万人まで減少する見込み
- 老年人口が増加する一方、年少人口や生産年齢人口はほぼ一貫して減少



出典：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「都道府県別将来推計人口(R5推計)」

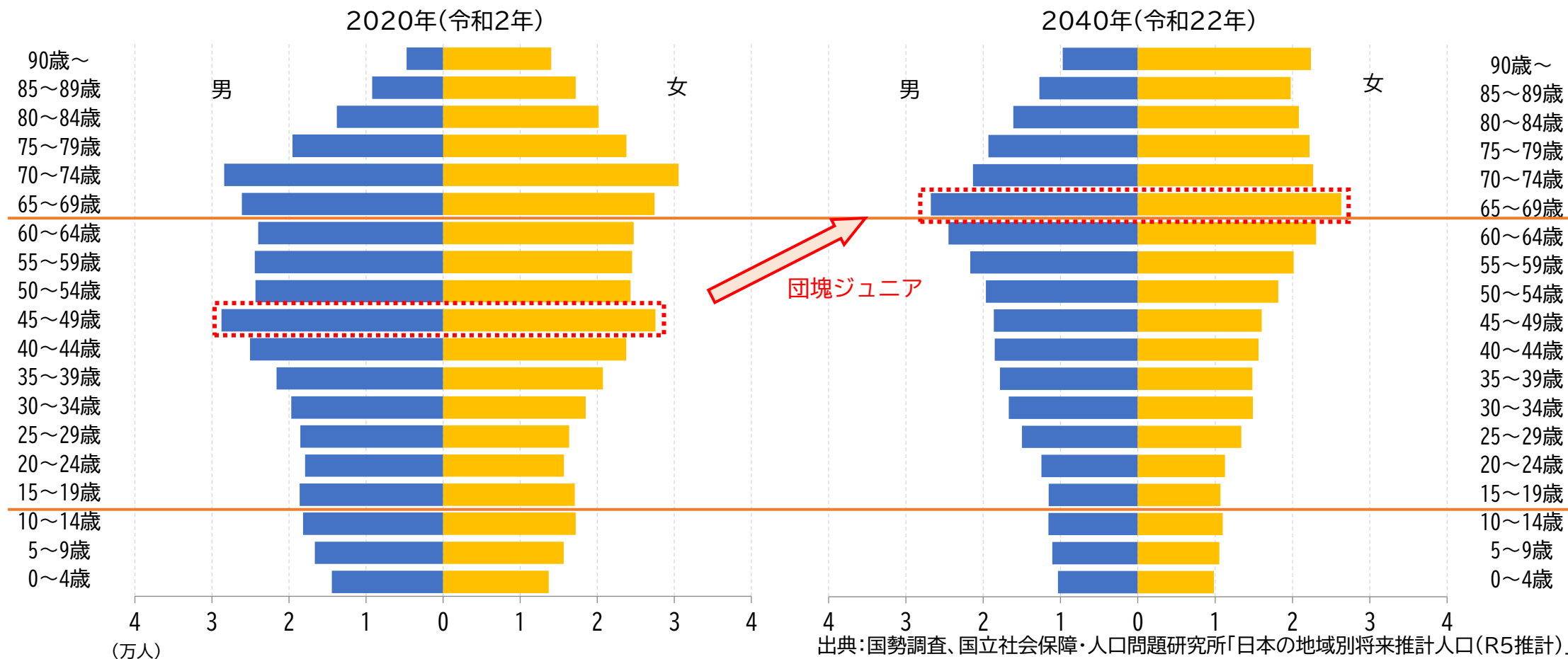
# 人口増減の推移

○ 2000年以降、自然増加数が社会減少数を下回り、人口減少に転じた。さらに、2004年からは自然減となり、人口の減少幅が拡大傾向



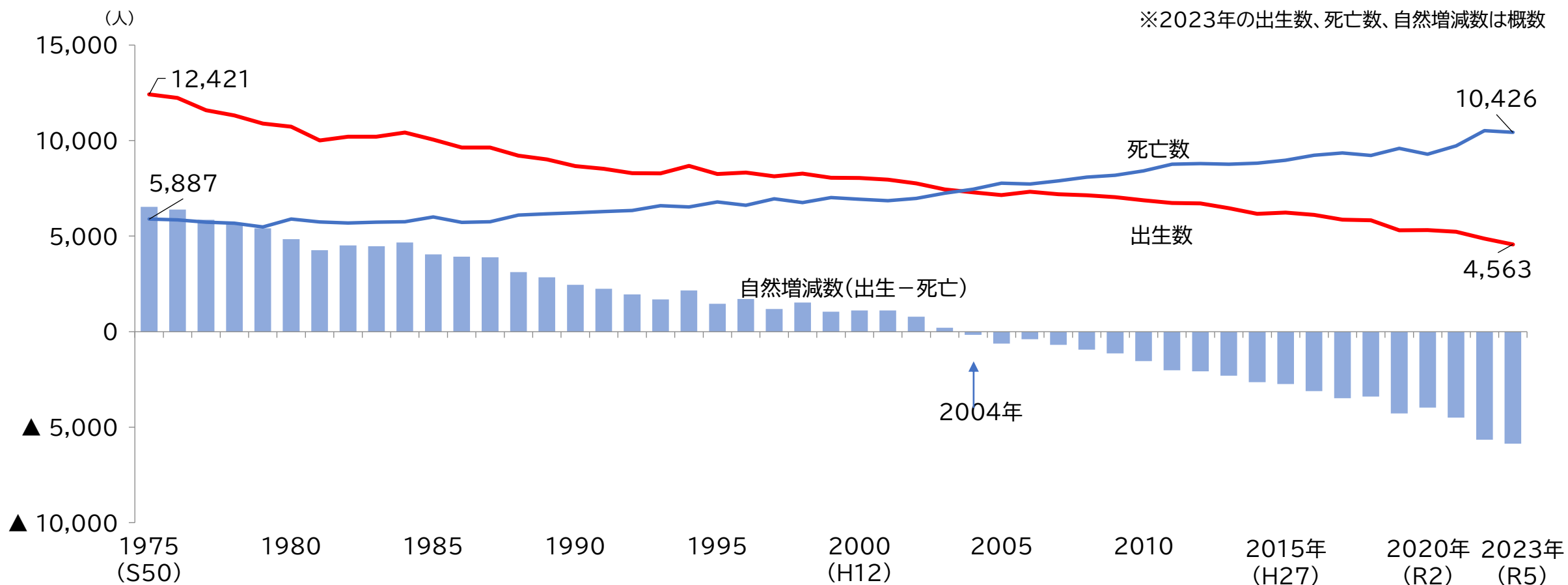
# 年齢階級別人口の状況

- 2040年には、団塊ジュニア（1971～1974年生まれ）が65歳以上となり、高齢化率は37.6%（24.0万人）となる。また、75歳以上は、総人口の22.4%となる
- 人口ピラミッドはいわゆる棺おけ型となり、65歳以上の高齢者一人を1.4人の現役世代（15～64歳）で支えることとなる（15～64歳人口／65歳以上人口 2020：1.9人 ⇒ 2040：1.4人）



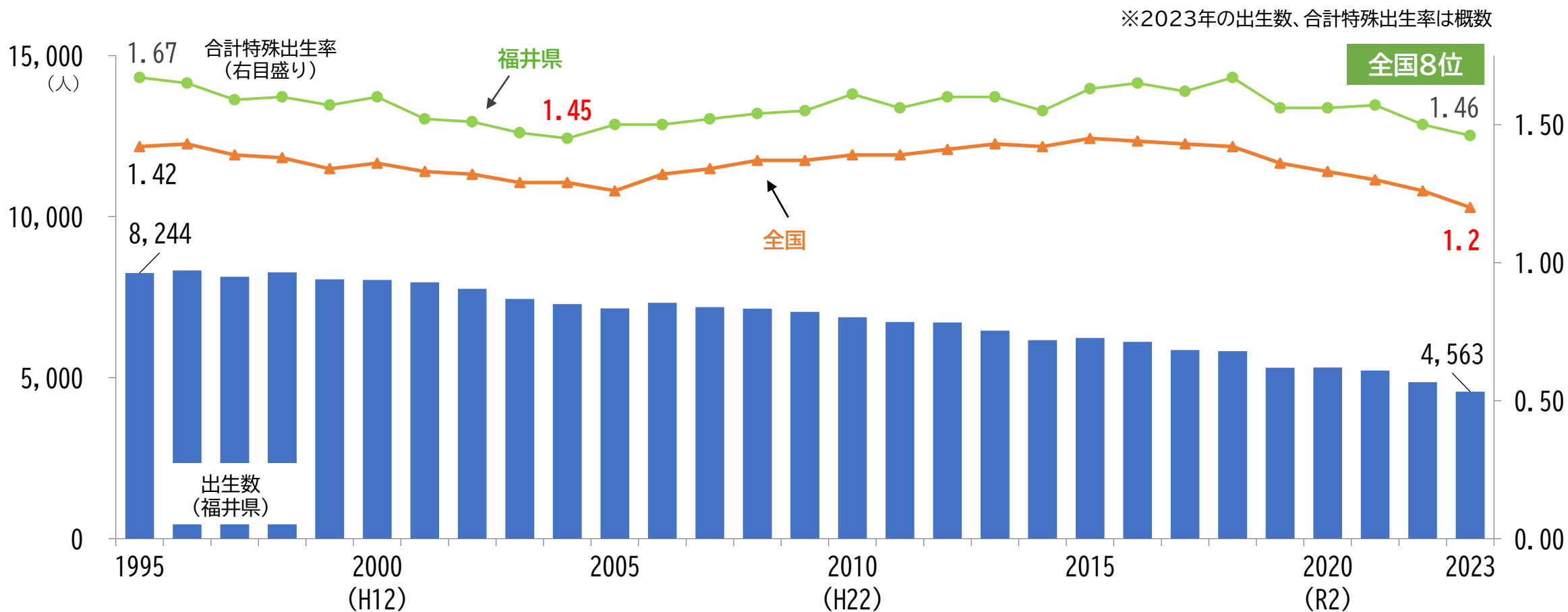
# 自然増減の状況

- 少子高齢化により出生数は減少、死亡数は増加傾向
- 2023年の自然減は5,863人で過去最大になり、今後も自然減拡大の傾向が続く見込み



# 出生数・合計特殊出生率の状況

- 合計特殊出生率は全国トップレベルを維持しているものの、2018年以降減少傾向
- 親世代の人口の減少により、合計特殊出生率が上昇した期間においても、出生数は減少

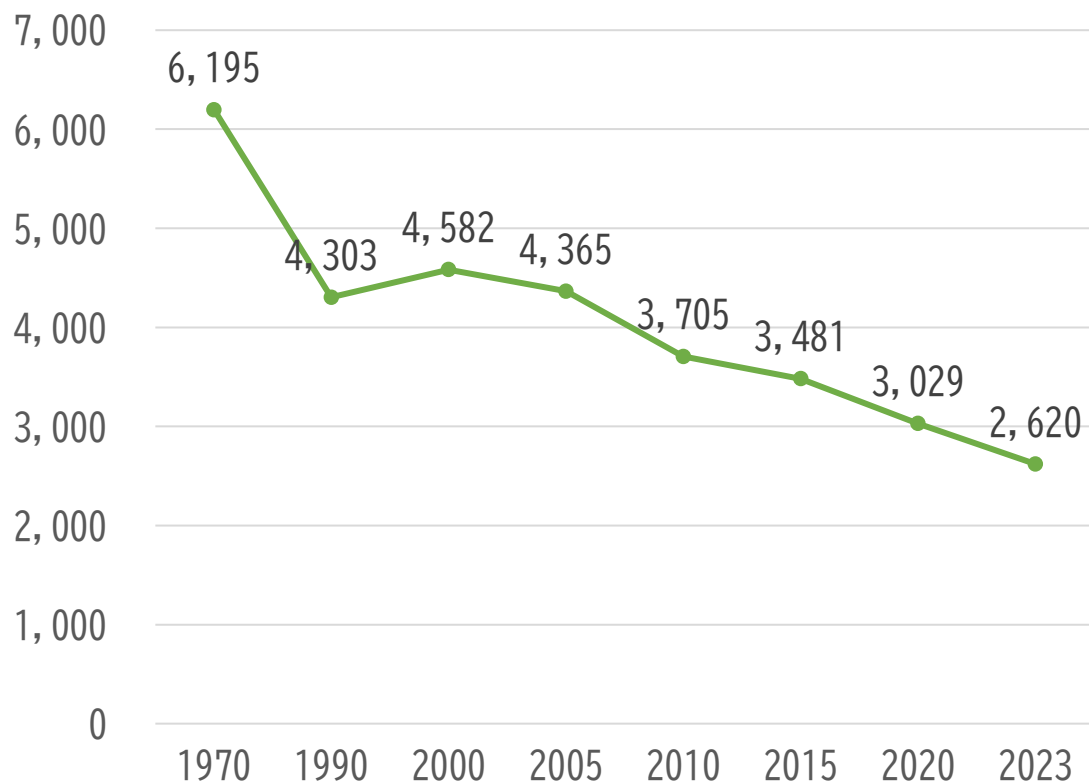


# 婚姻件数と未婚率

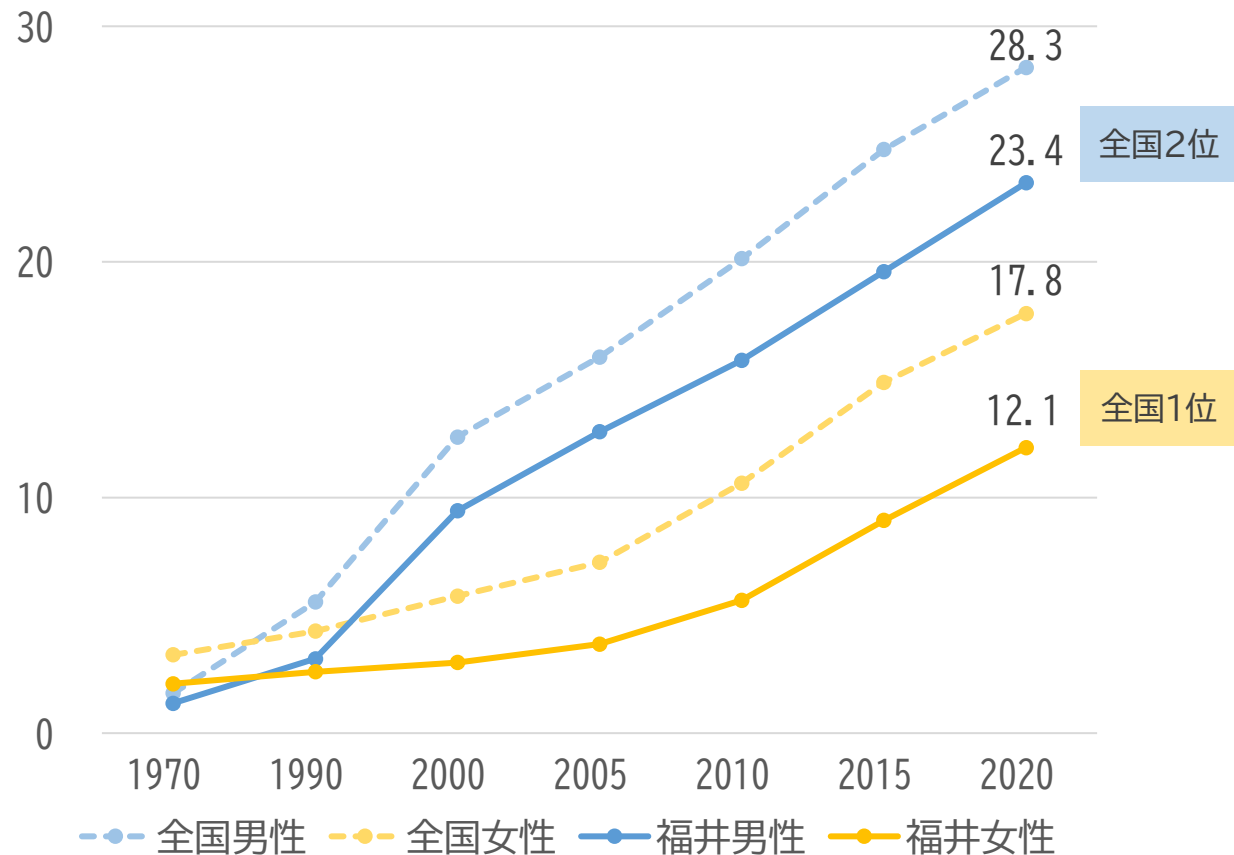
○婚姻件数は減少傾向にあり、2021年に3,000件を下回った。

○50歳未婚割合は男性23.4%、女性12.1%と男女ともに全国平均と比べて低い割合で推移しているが、増加傾向にある。

① 婚姻件数(福井県)の推移



② 50歳時未婚割合の推移

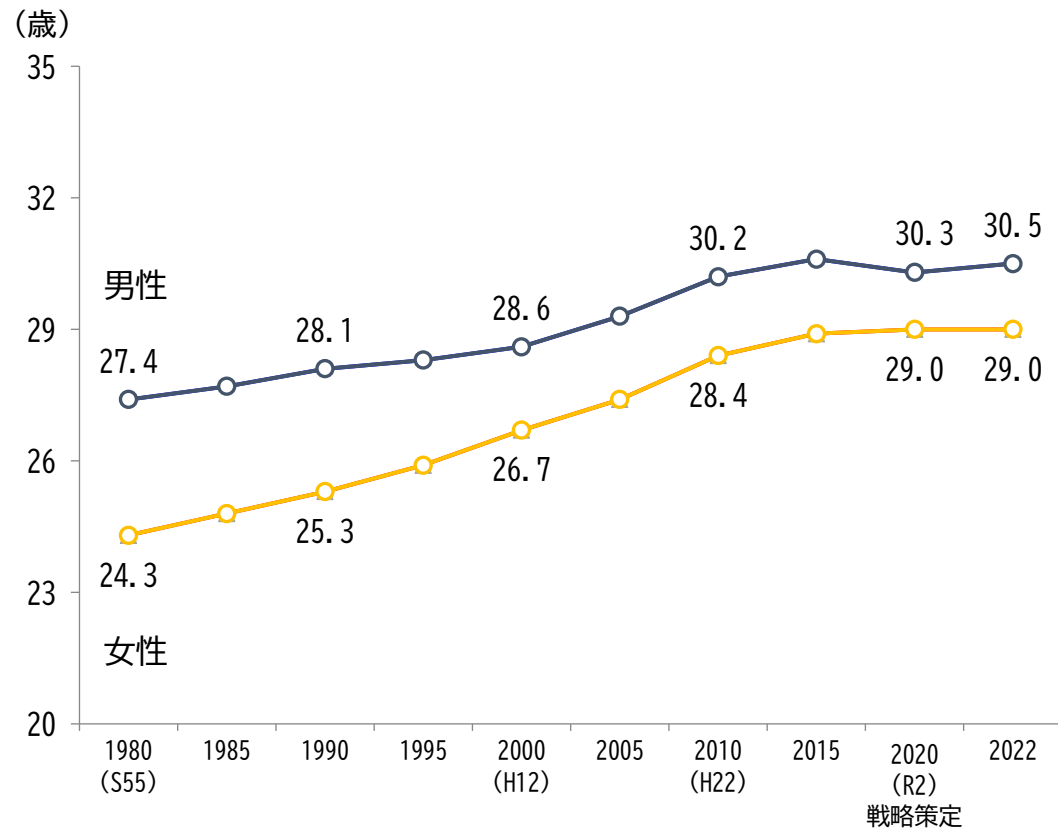


# 平均初婚年齢と女性の平均出産年齢の推移

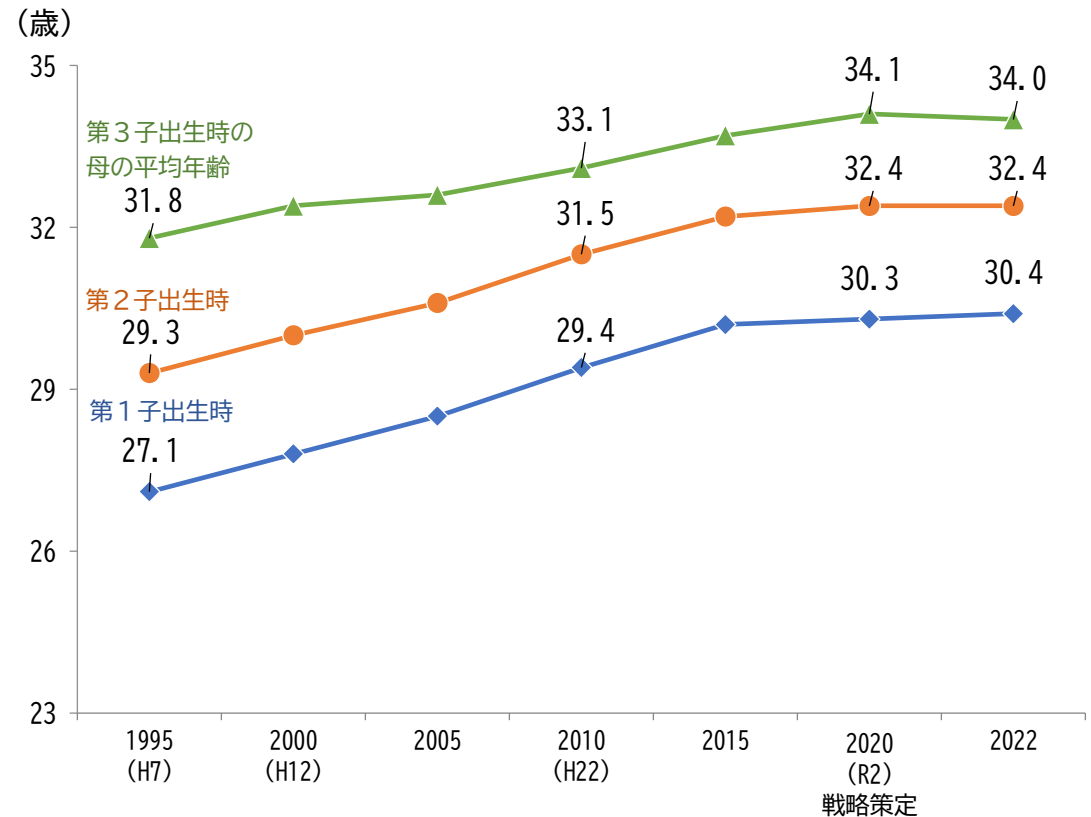
○結婚から出産までの期間はほぼ一定（約1年）であるものの、初婚年齢の上昇に伴い、出産年齢が上昇

○本県の男女とも晩婚化が進行し、女性の平均出産年齢も上昇していたが、2015年以降、初婚年齢・出産年齢ともに概ね横ばいで推移

① 男女別平均初婚年齢



② 女性の平均出産年齢の推移

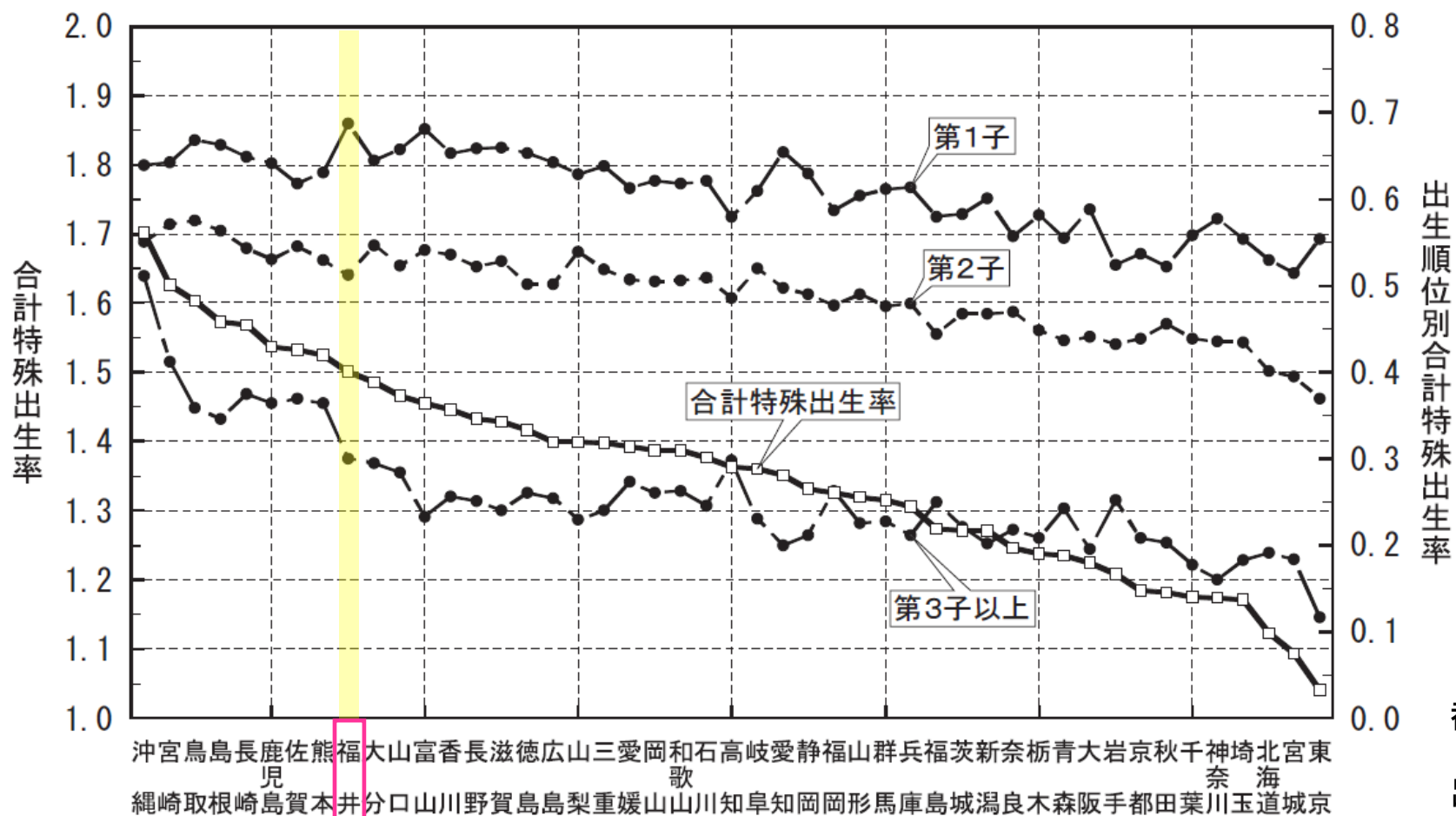




# 第1、2、3子の出生率の全国比較

○福井県の第1子の出生率は、全国トップクラス

○第2子の出生率は上位県と同等程度であり、第3子においては上位県との差が大きい



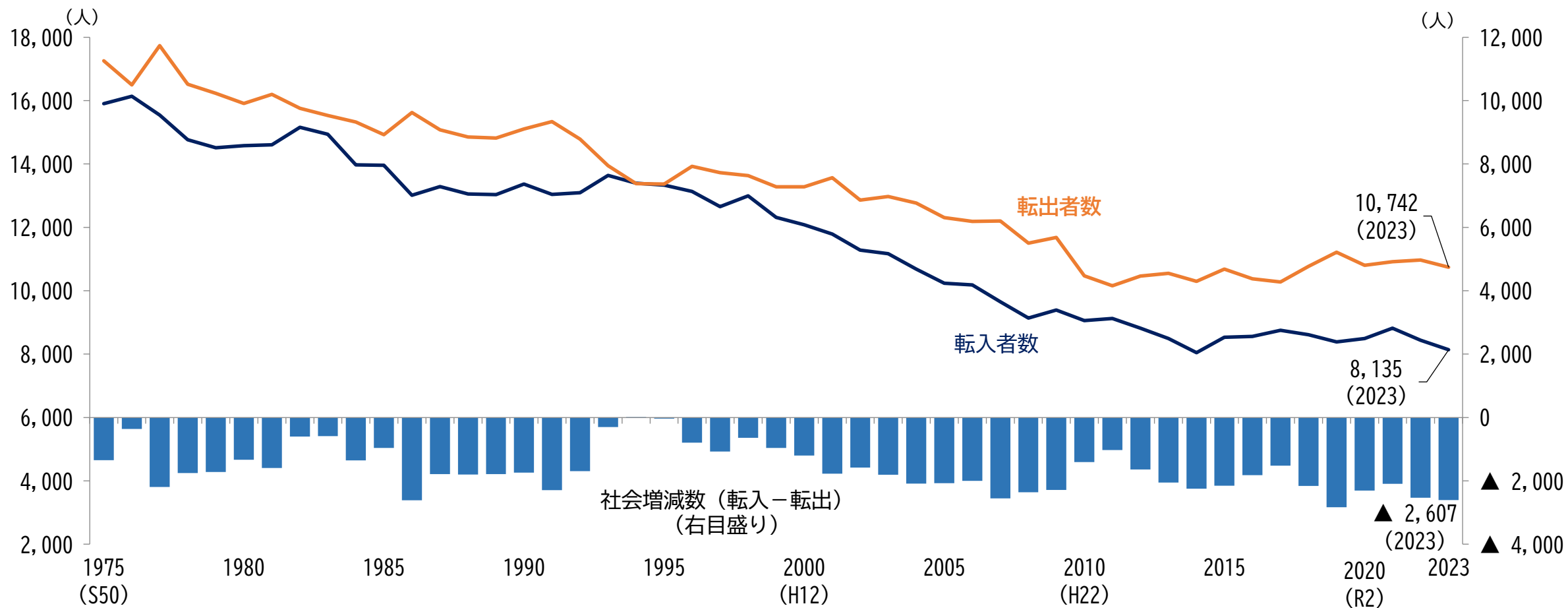
都道府県(合計特殊出生率の高い順)

出典:人口問題研究79-4 (2023.12) 社人研

# 社会増減の状況

○概ね社会減（転出超過）の状況にあり、2014年まで 転入者、転出者ともに減少傾向

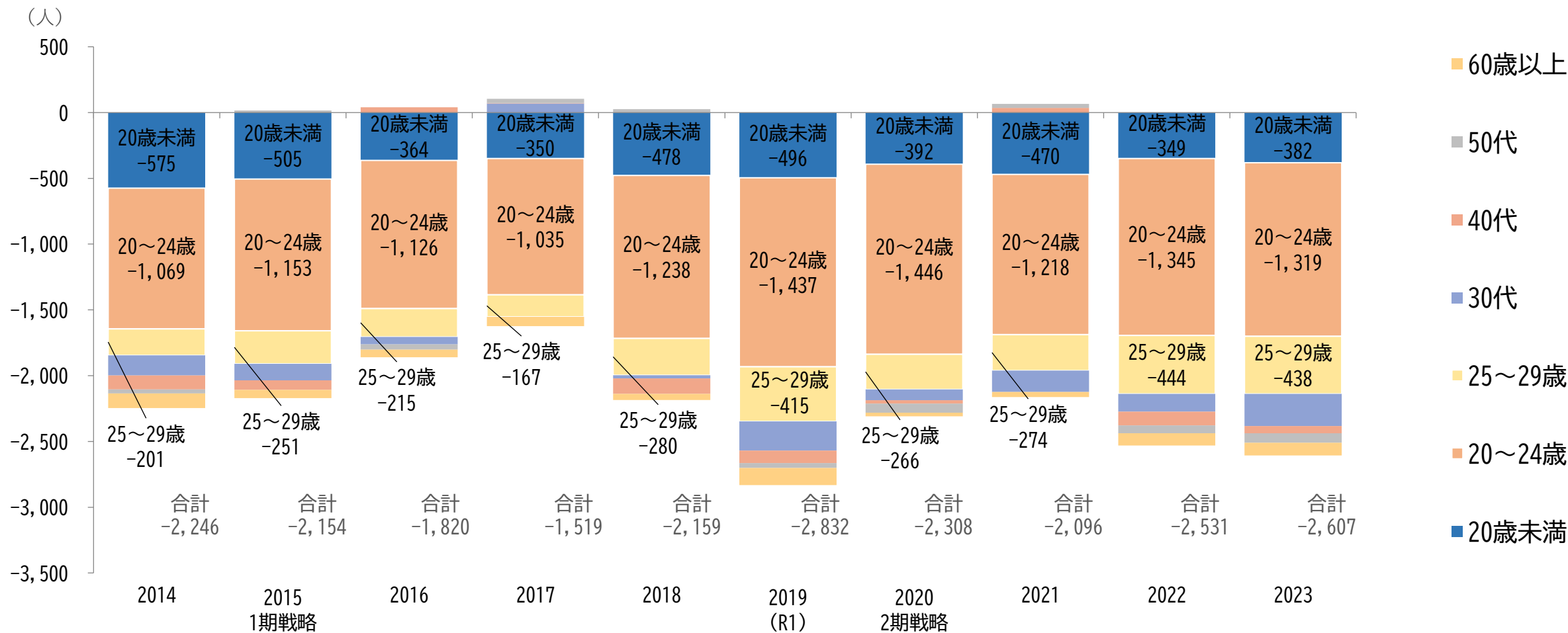
○2015年以降、転入者、転出者ともに概ね横ばいで推移



# 福井県 年齢階級別の県外移動の状況(日本人)

○2019年以降、コロナ禍の影響もあり一時的に社会減は改善したが、再び拡大傾向

○20代の転出数が多く、その要因としては、大学や企業の都市部集中といった社会構造が根底にある



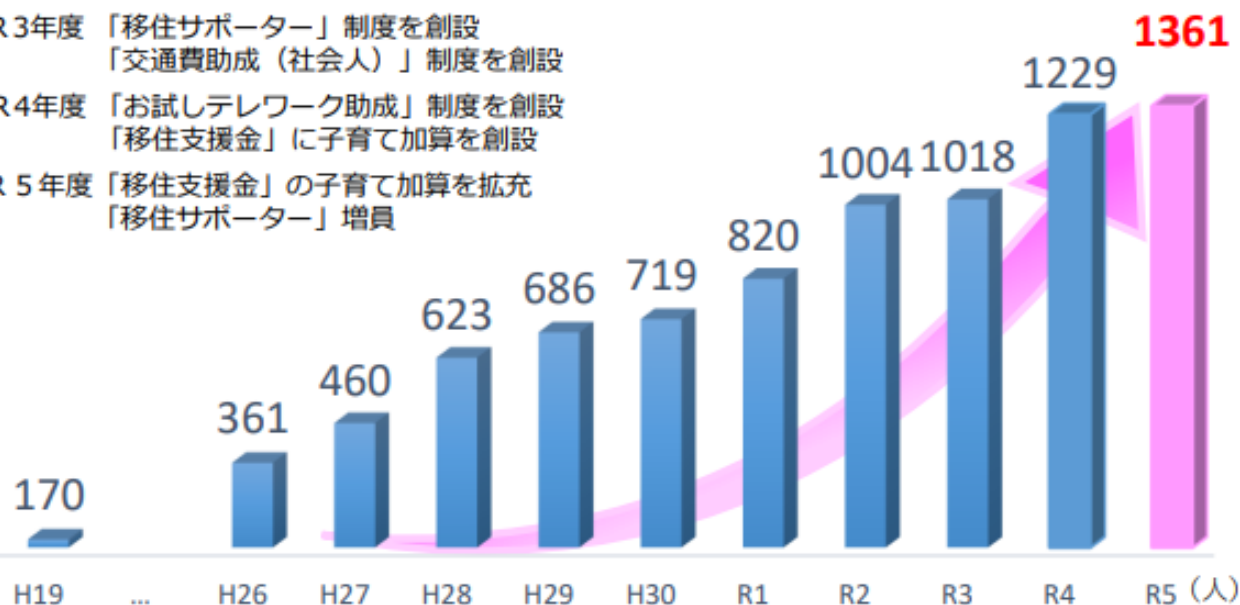
# Uターンの状況(新ふくい人の推移)

## 「新ふくい人」が過去最高を更新！

○令和5年度は**1,361人**となり前年度比1割増加  
 「新ふくい人」…県や市町の支援を受けて福井県に移住した人

- H27年度 ふるさと福井移住定住促進機構開設  
 (福井・東京・大阪・名古屋の4拠点)
- R2年度 「移住支援金(全国型)」制度を創設
- R3年度 「移住サポーター」制度を創設  
 「交通費助成(社会人)」制度を創設
- R4年度 「お試しテレワーク助成」制度を創設  
 「移住支援金」に子育て加算を創設
- R5年度 「移住支援金」の子育て加算を拡充  
 「移住サポーター」増員

【新ふくい人の推移】



## 都市圏からの移住者が堅調に増加！

○関東からの移住者が最も多く、三大都市圏(関東・関西・中京)の移住者は約**3.7倍**に増加

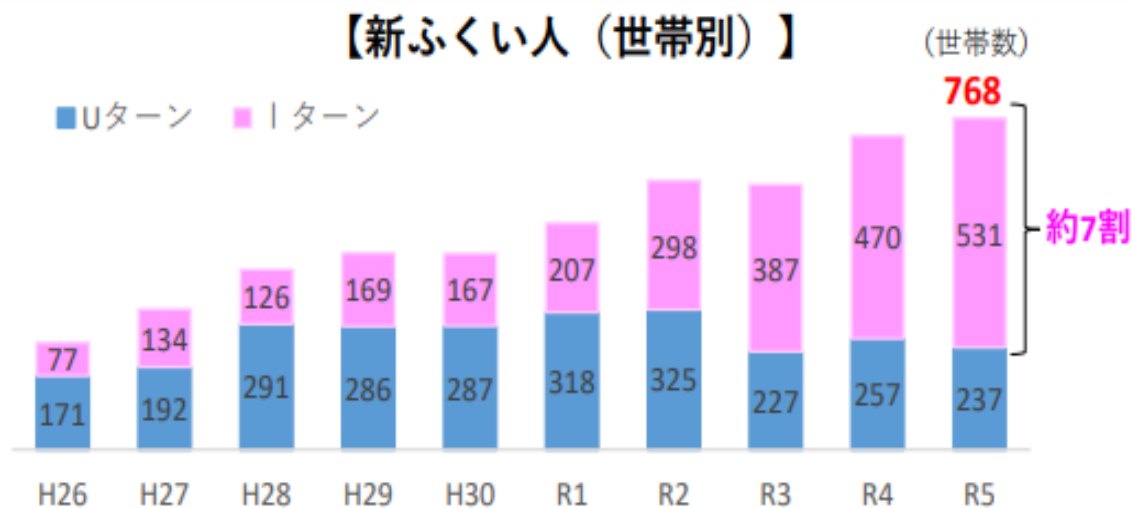
【新ふくい人(移住前地域別)】



# Uターンの状況(新ふくい人の推移) 続き

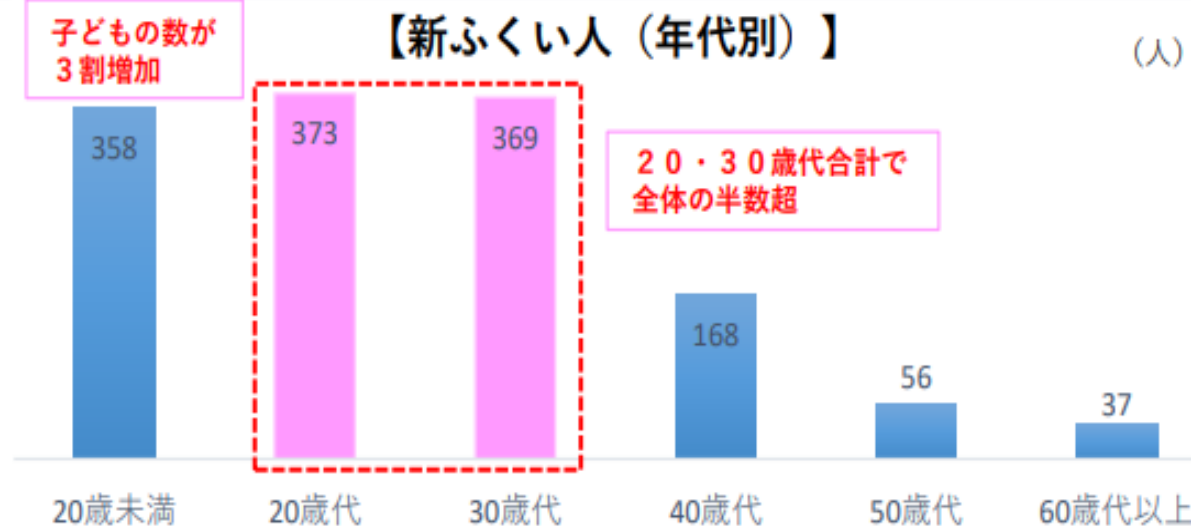
## 移住の中心はIターン世帯！

○令和5年度は768世帯が移住 うち**7割がIターン**



## 子ども帯同の移住が増加！

○20歳、30歳代の**子育て世代の移住者が最も多い**



# 人口戦略会議「消滅可能性自治体」

○「消滅可能性自治体」は、20～39歳の若年女性人口が2020年から2050年までの30年間に50%以上減少する自治体と定義

○全国で744自治体（全自治体の4割強）、福井県内では8自治体と推計

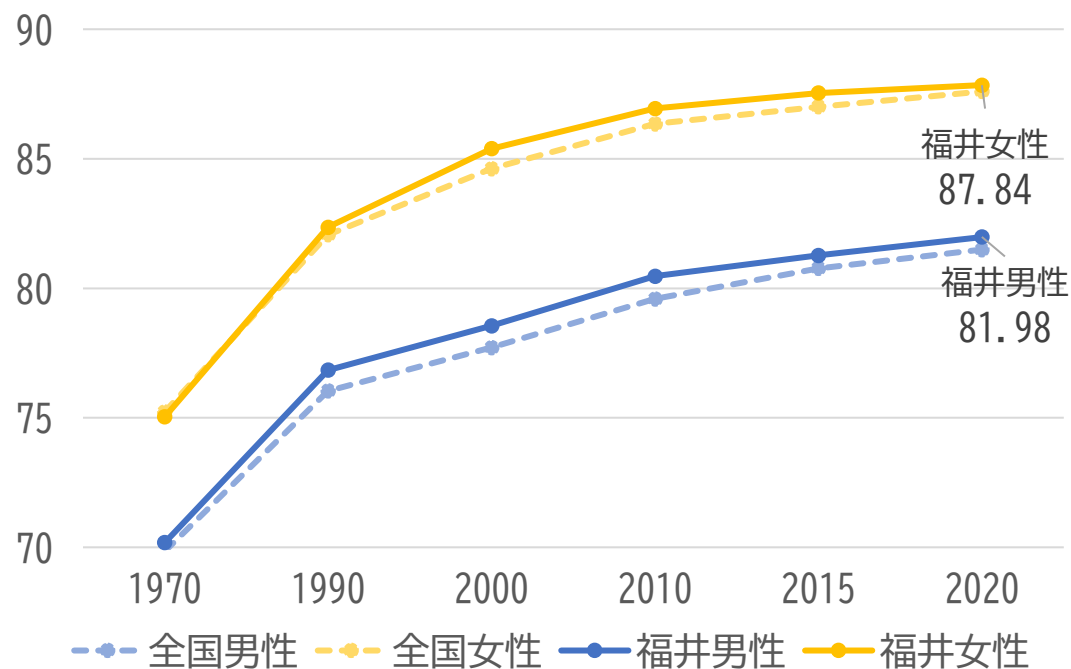
自治体名	2050年人口（移動想定）			2050年人口（封鎖人口）			2020年人口	
	若年女性人口 減少率（%）	若年女性人口 （20～39歳）	総人口	若年女性人口 減少率（%）	若年女性人口 （20～39歳）	総人口	若年女性人口 （20～39歳）	総人口
福井市	▼29.1	18,150	213,712	▼27.6	18,535	210,918	25,604	262,328
敦賀市	▼39.6	3,533	47,585	▼23.6	4,467	50,565	5,845	64,264
小浜市	▼39.6	1,503	21,212	▼19.0	2,017	22,004	2,489	28,991
大野市	▼59.9	961	17,078	▼24.0	1,822	21,198	2,396	31,286
勝山市	▼53.0	814	12,892	▼24.9	1,300	15,338	1,731	22,150
鯖江市	▼25.4	5,000	58,749	▼19.9	5,370	57,987	6,706	68,302
あわら市	▼51.1	1,194	17,958	▼31.2	1,679	19,509	2,440	27,524
越前市	▼42.8	4,601	59,291	▼29.9	5,638	64,254	8,042	80,611
坂井市	▼40.1	5,073	67,141	▼27.1	6,182	70,062	8,476	88,481
永平寺町	▼39.0	1,216	13,325	▼42.7	1,142	14,355	1,992	18,965
池田町	▼72.0	45	1,138	▼32.3	109	1,438	161	2,423
南越前町	▼57.4	327	5,368	▼18.2	628	7,065	768	10,002
越前町	▼54.8	695	11,813	▼23.3	1,181	14,219	1,539	20,118
美浜町	▼49.0	369	5,803	▼21.1	571	6,586	724	9,179
高浜町	▼56.0	325	6,789	▼8.8	674	7,959	739	10,326
おおい町	▼39.1	364	5,252	△10.5	661	6,523	598	7,910
若狭町	▼55.1	436	7,779	▼5.4	918	10,125	970	14,003
福井県全体	▼37.4	44,606	572,885	▼25.7	52,894	600,105	71,220	766,863

# 平均寿命と健康寿命

○平均寿命、健康寿命ともに延伸しており、全国平均を上回るレベルを維持しているが、2000年と比べると特に女性の平均寿命が大きく順位を下げている

○食塩摂取量の増加や平均歩数の減少など、生活習慣が悪化

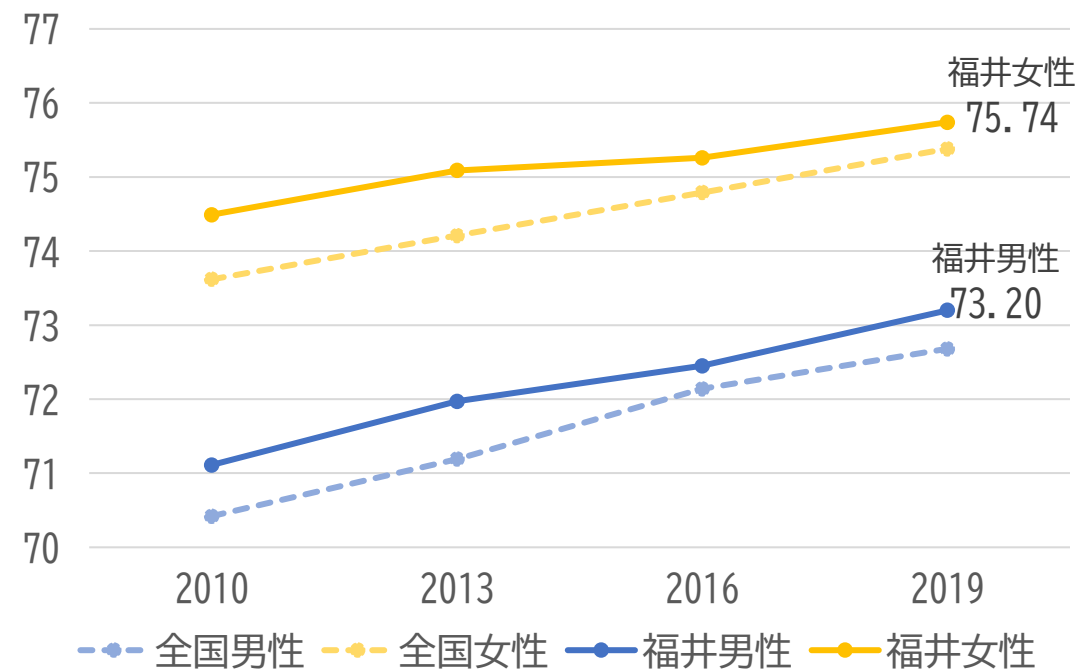
## ① 平均寿命の推移



全国順位	1970	1990	2000	2010	2015	2020
男性	12位	2位	2位	3位	6位	7位
女性	23位	12位	2位	7位	5位	19位

【出典】厚生労働省「都道府県生命表」

## ② 健康寿命の推移

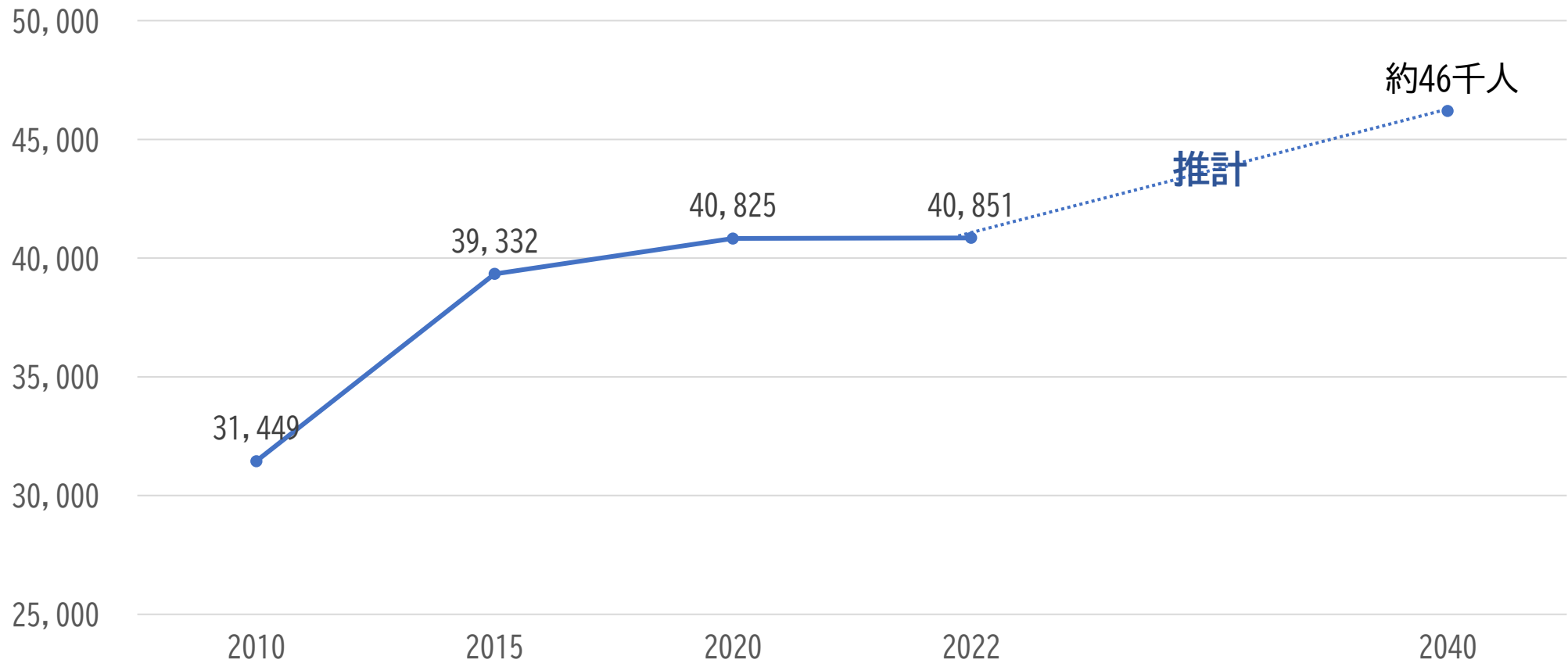


全国順位	2010	2013	2016	2019
男性	8位	6位	10位	10位
女性	11位	9位	14位	19位

【出典】厚生労働省が国民生活基礎調査を基に算出

## 要介護者数

- 第1次ベビーブーム世代が65歳以上となった2015年にかけて高齢者数が大きく増加し、要介護認定者数も増加
- 今後、後期高齢者数の増加等により、要介護認定者数は2040年ごろにピークを迎える見込み



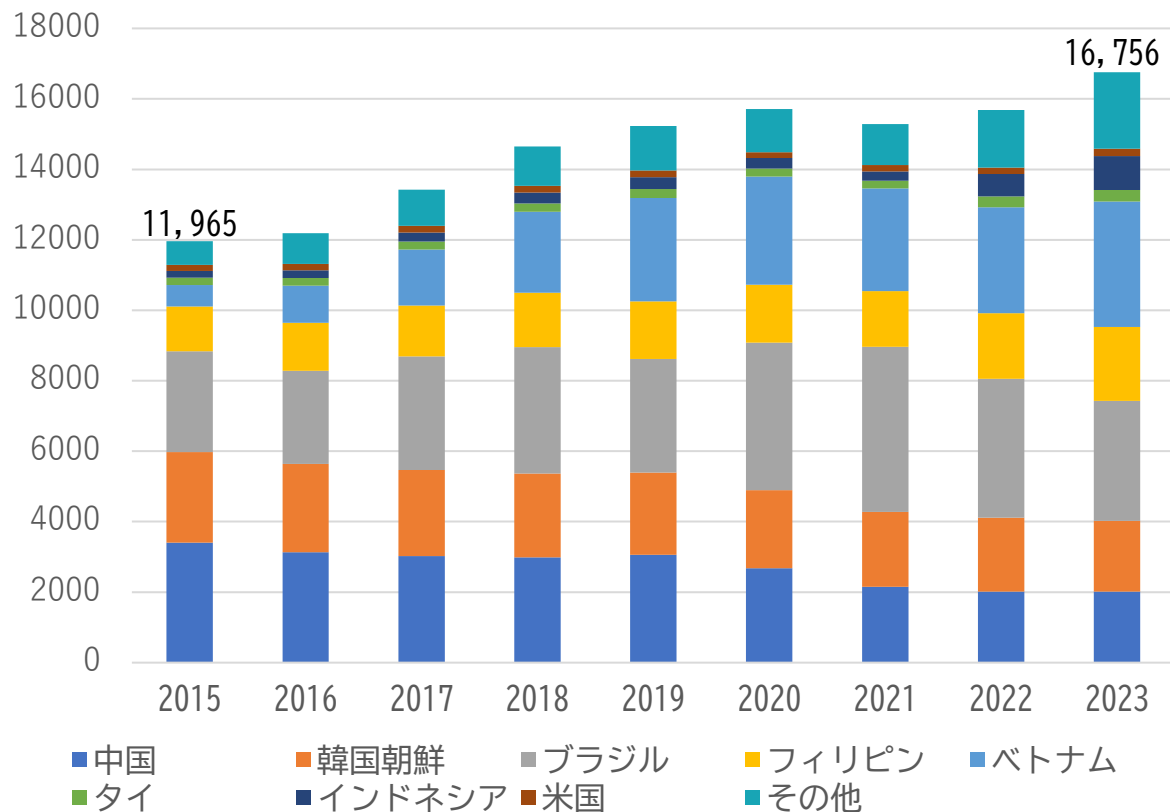


# 福井県の外国人住民数

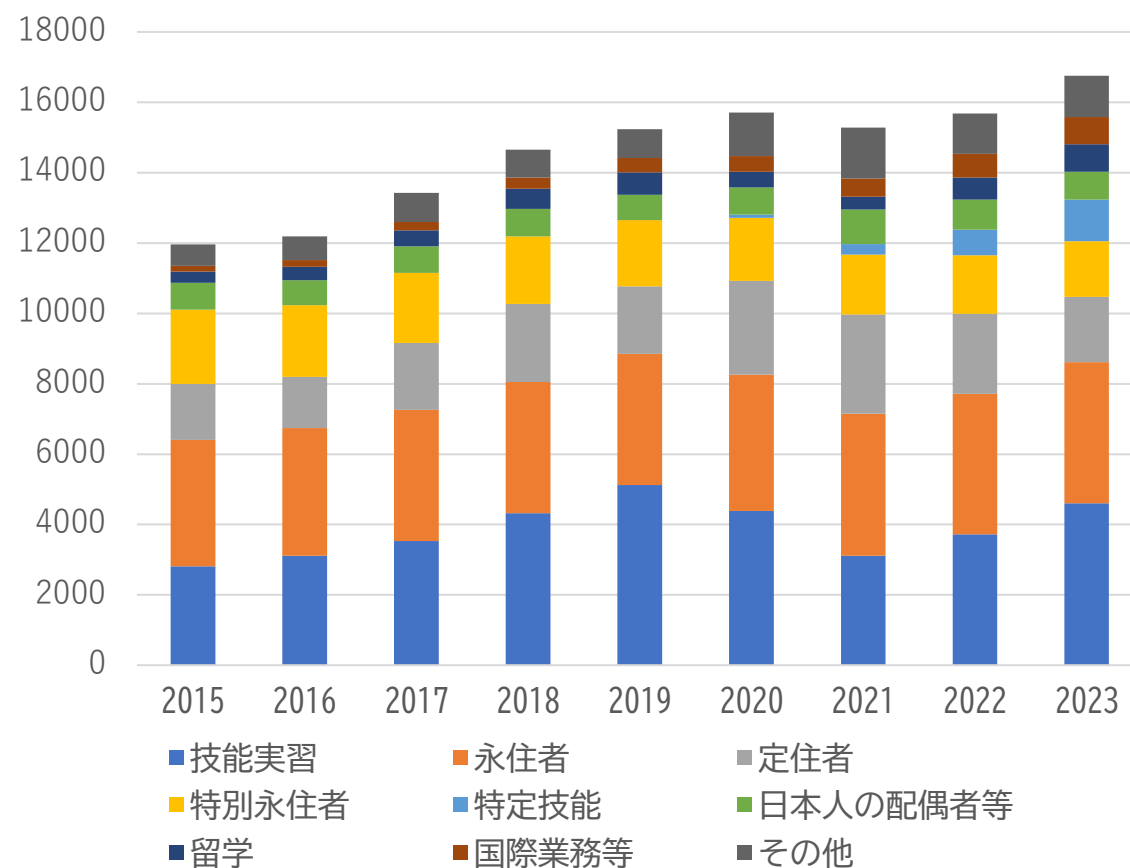
○2023年の外国人住民数は過去最多。国籍・地域別ではベトナムが初めて最多となり、次いでブラジル、フィリピン、中国

○在留資格別では、技能実習が2020年以来の最多となり、次いで永住者、定住者の順

国籍・地域別外国人住民数



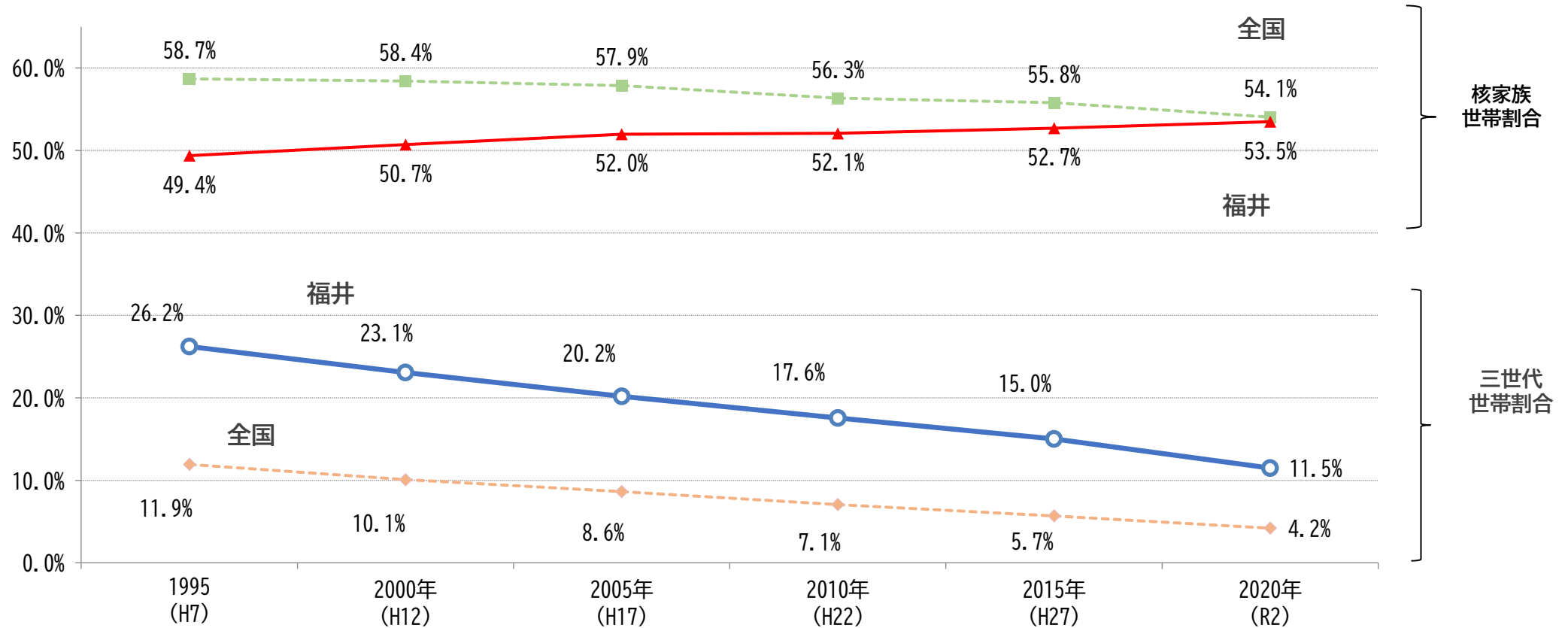
外国人住民の在留資格



出典:福井県国際化の現状

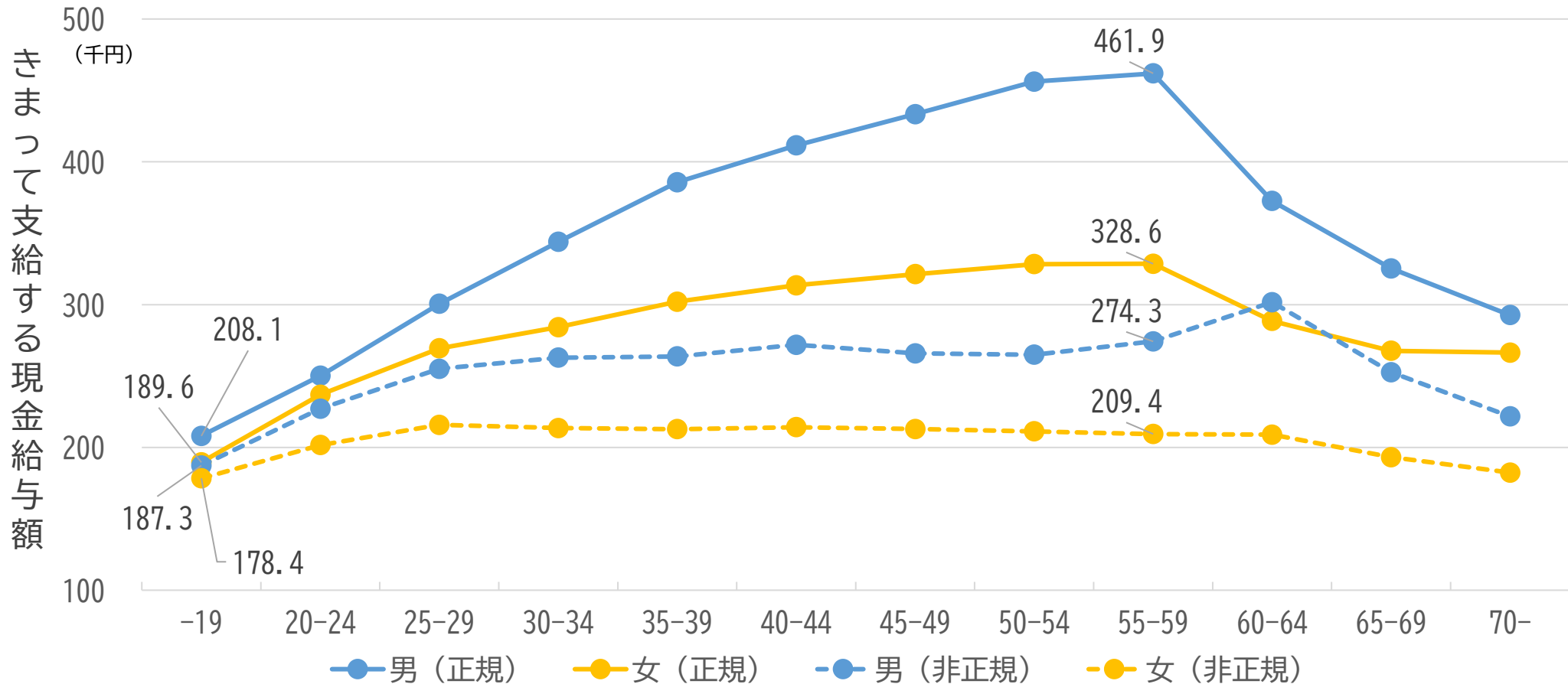
# 三世代世帯割合

○本県の三世代世帯割合は、全国と比べて高いものの、一貫して低下。一方、核家族世帯の割合が徐々に上昇。



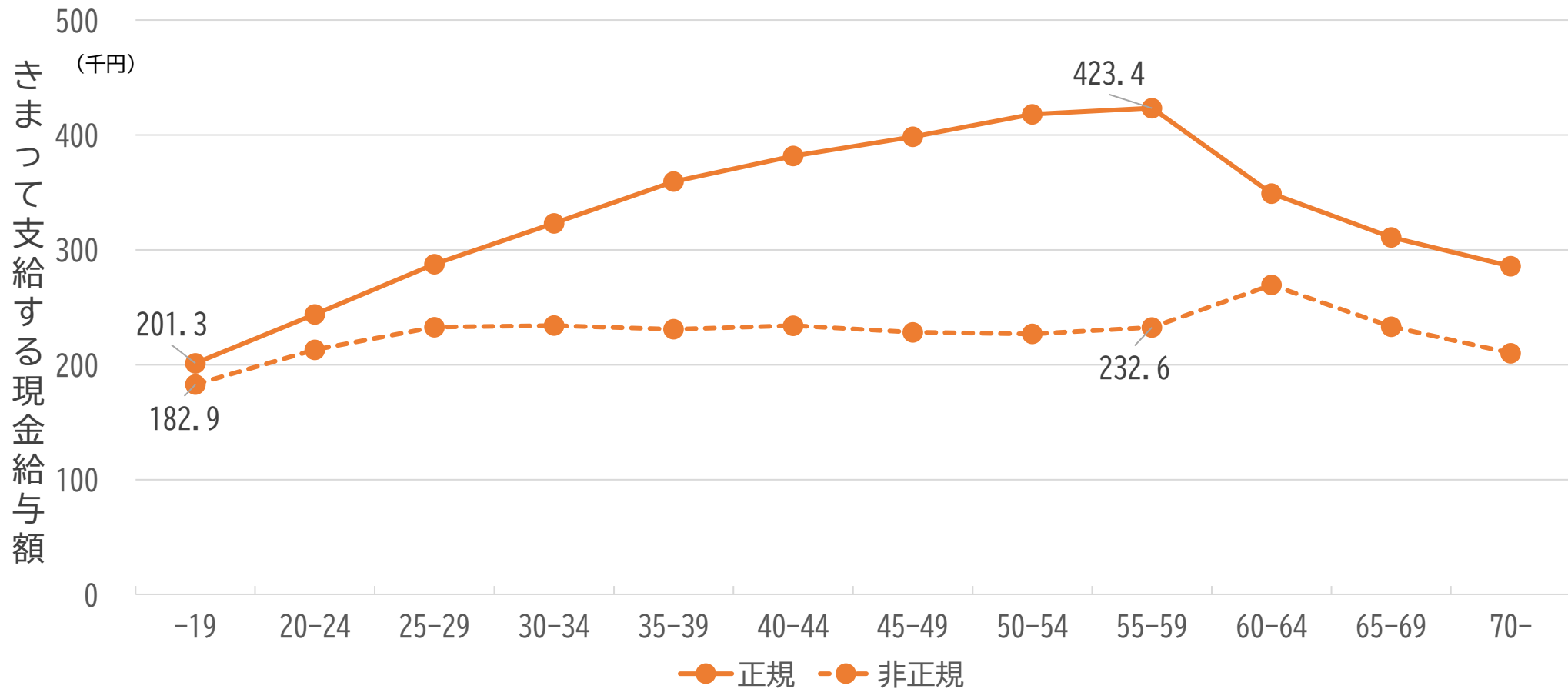
# 男性・女性の賃金格差

○30代以降、正規雇用の男性の給与の伸びに対し、正規雇用の女性の伸びは小さい



## 正社員・非正社員の賃金格差

○正社員・非正社員の賃金は60歳にかけて格差が広がっている



## 最低賃金の推移

○福井県の最低賃金は、上昇傾向にある

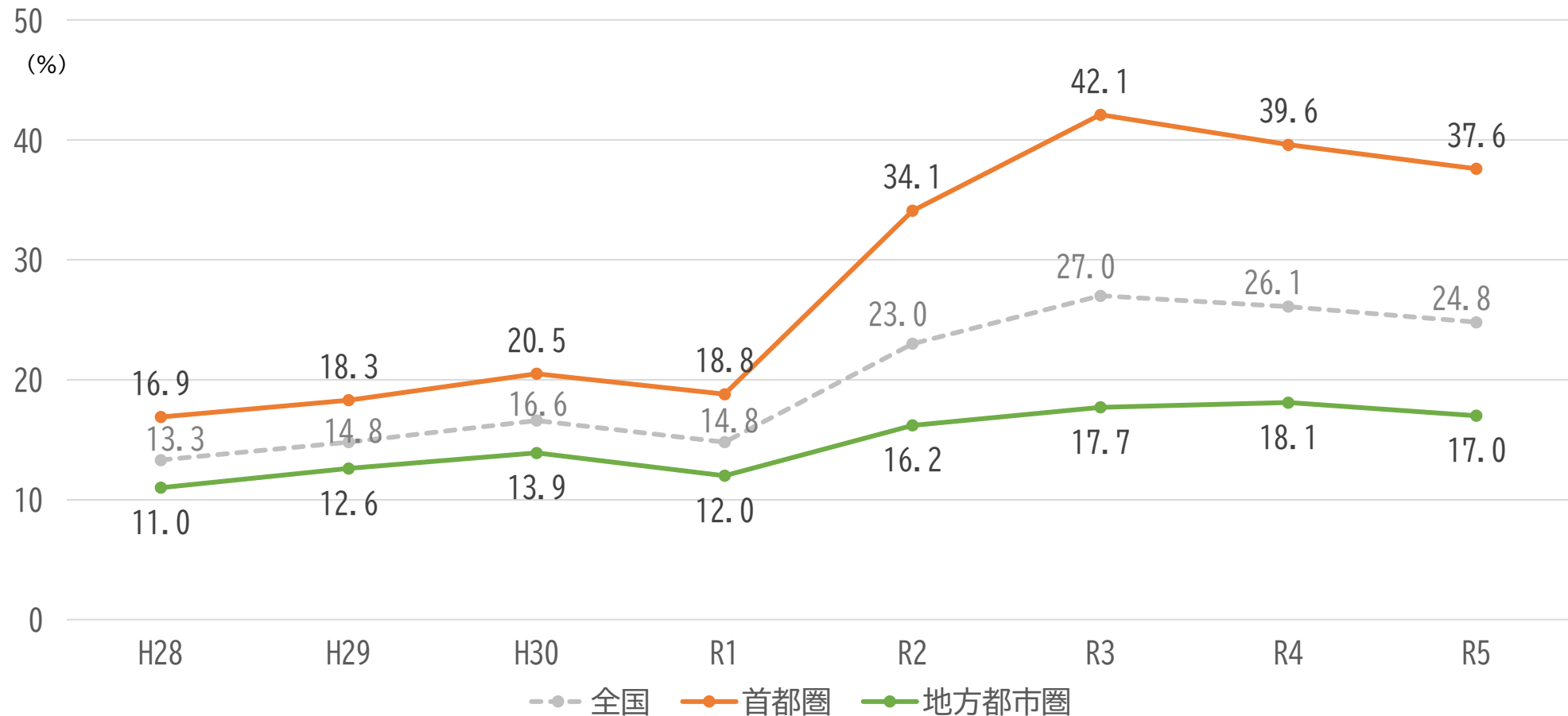
○都道府県別で最も最低賃金の額が高い東京都とは、令和5年度で182円の差がある



## テレワークをしたことがある方の割合

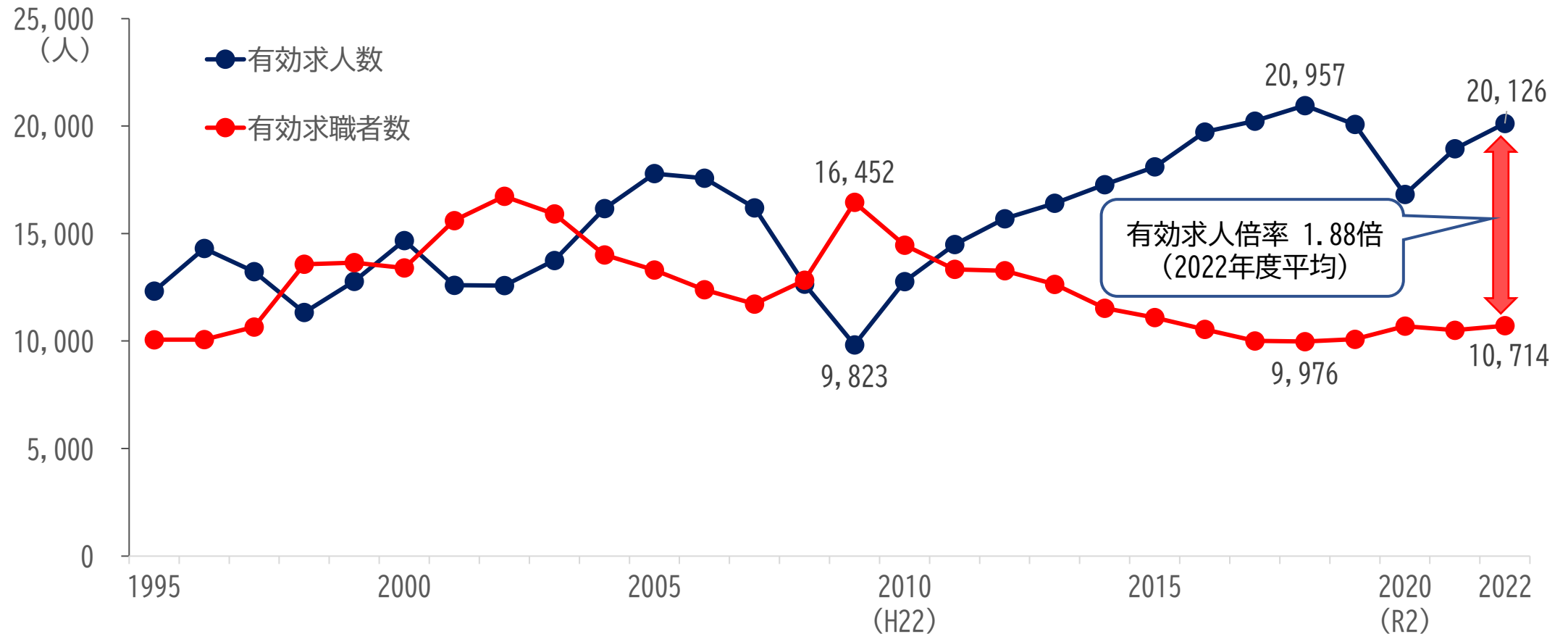
○テレワークをしたことがある方の割合は、コロナ禍以降、従前より高い水準となった

○テレワークをしたことがある方の割合は、相対的に首都圏で高い



# 有効求人倍率の推移

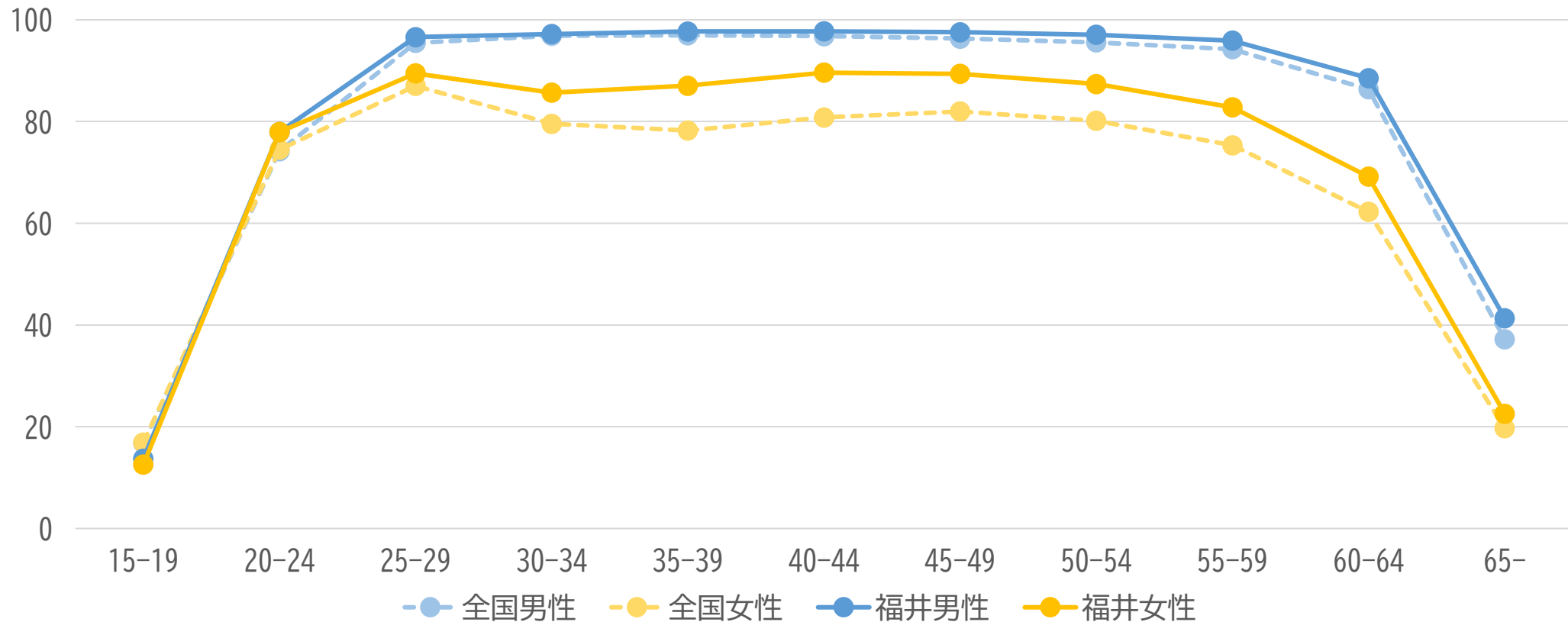
○本県の有効求人倍率は全国上位の水準で推移しており、求職者の不足数は約1万人と推計される



## 年齢階級別労働力率

○女性の労働力率は、結婚・出産期に当たる年代に一旦低下し、育児が落ち着いた時期に再び上昇する傾向が見られる（M字カーブ）

○福井県の女性は、全国平均と比較して、30代での落ち込みが浅い

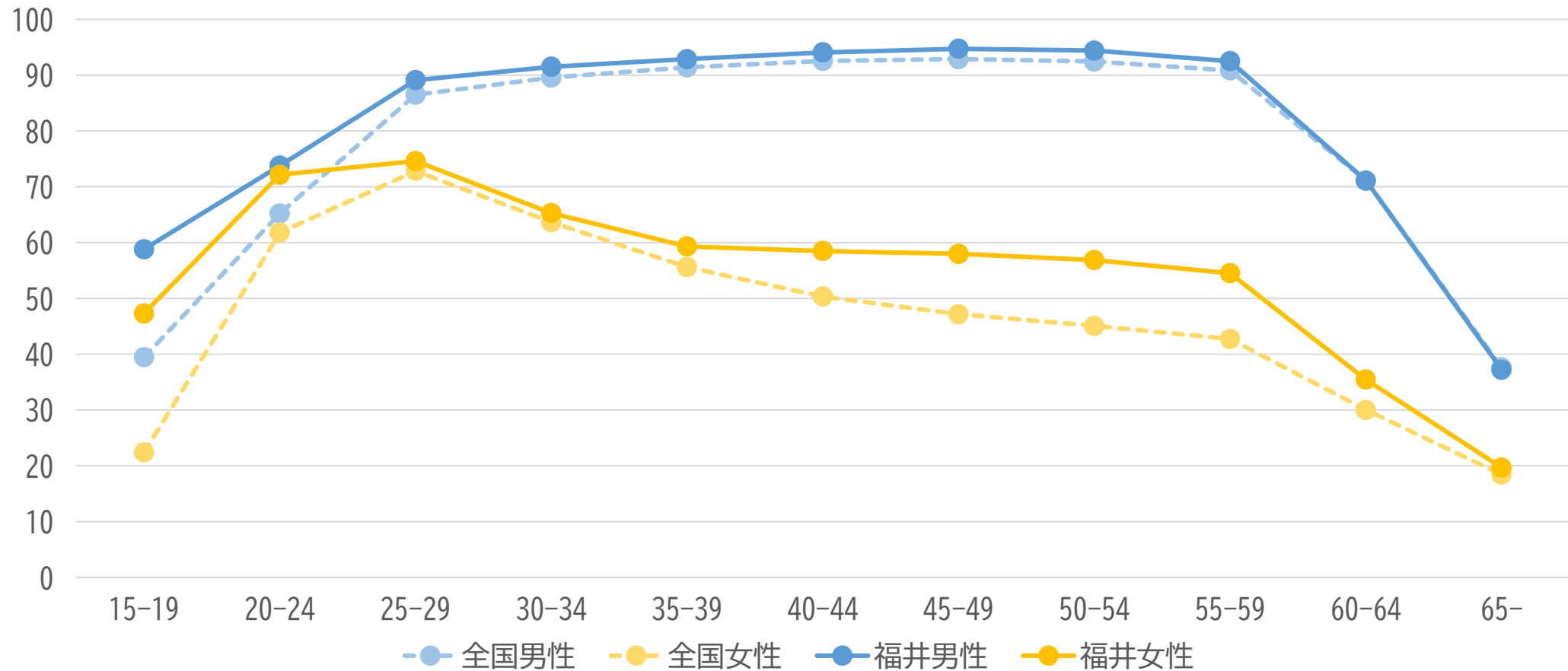




## 年齢階級別正規雇用比率

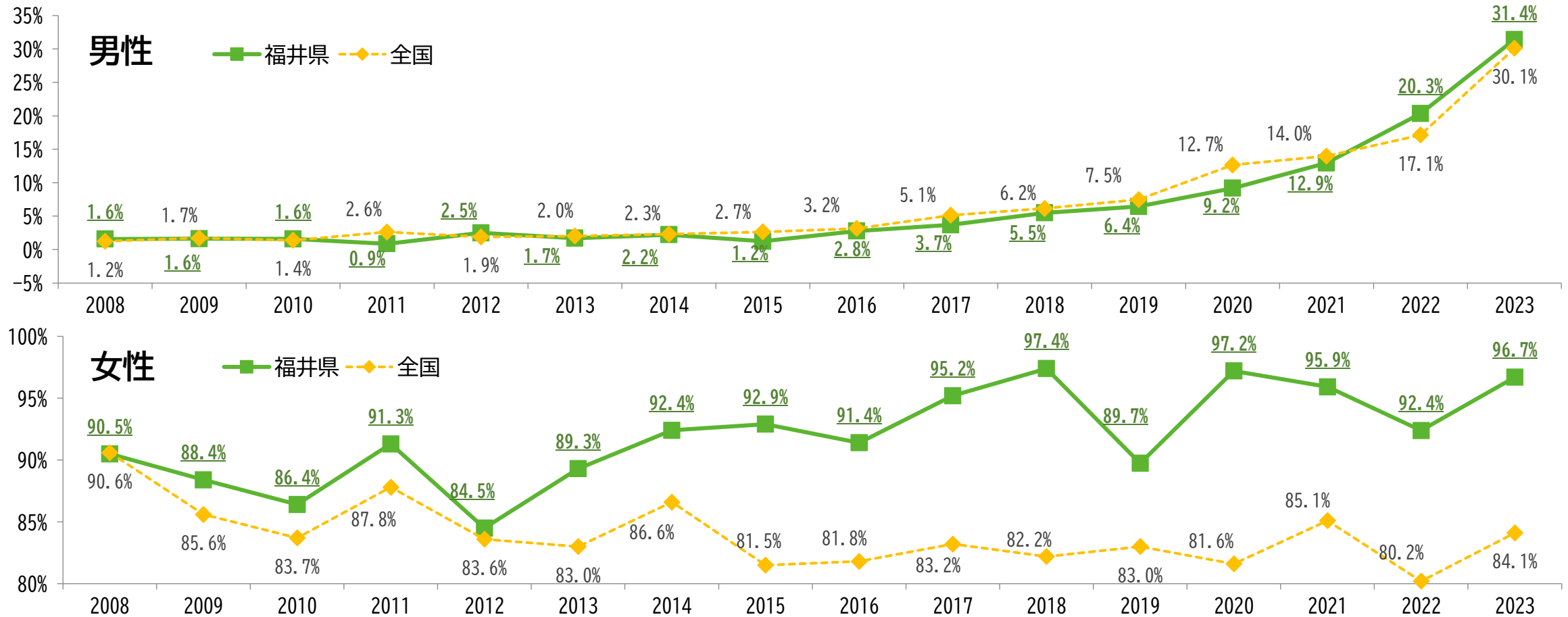
○女性の年齢階級別正規雇用比率は25-29歳をピークに低下している（L字カーブ）

○福井県は、男女とも全国平均と比較し、正規雇用の割合が高い



# 育児休業取得の状況

○男性育児休業取得率は、2022年に20.3%となり、近年は全国よりも大きく伸びている  
 (2019年→2022年 福井県+13.9ポイント、全国平均+9.6ポイント)

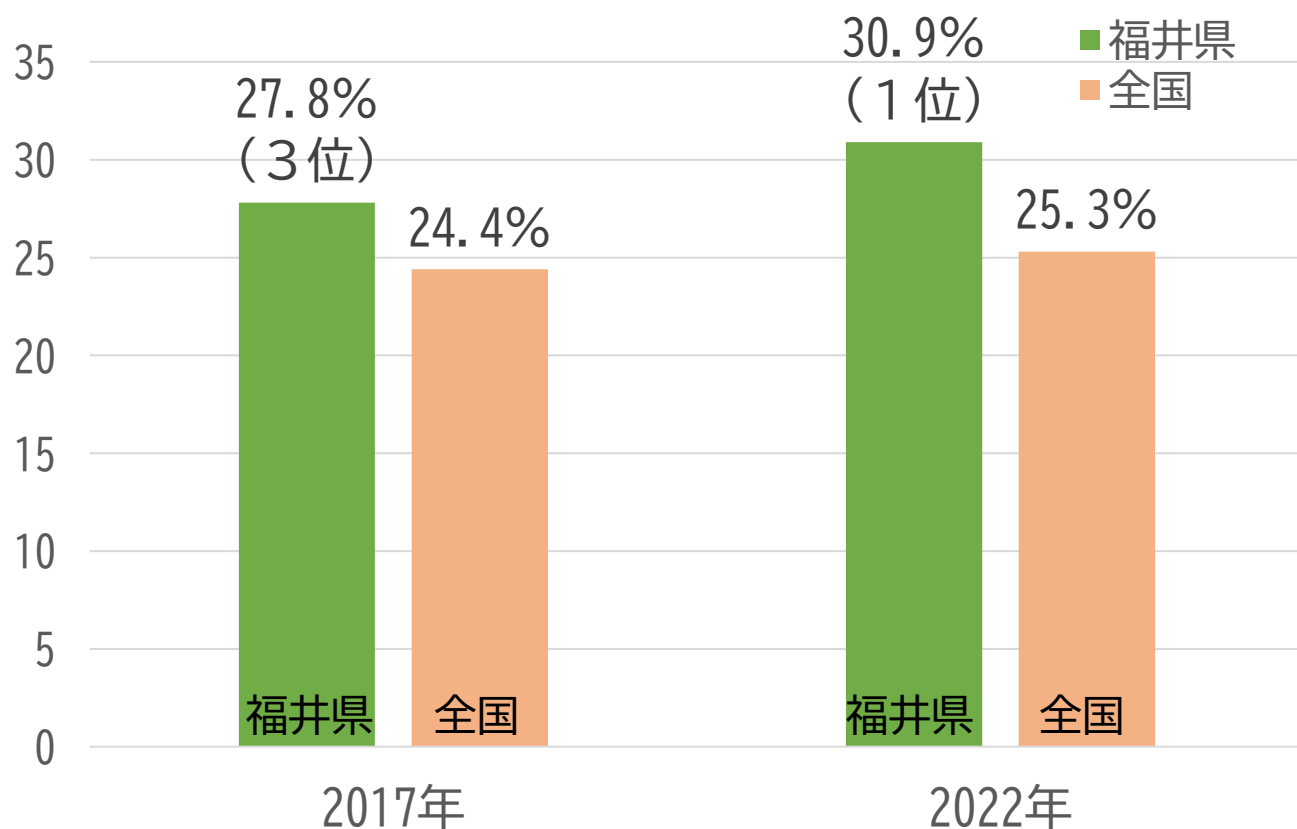


出典:勤労者就業環境基礎調査(福井県)、雇用均等基本調査(厚生労働省)

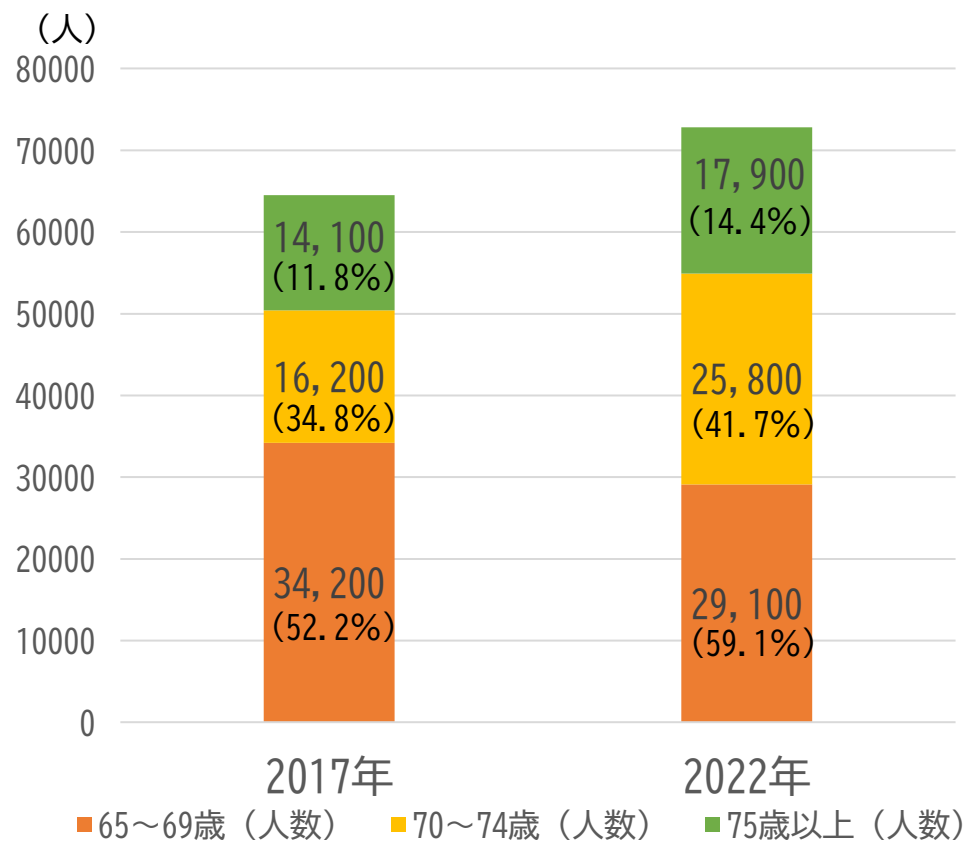
# 高齢者有業率

- 高齢者の有業率は全国平均を上回り、2022年は全国1位である
- 65歳～69歳の有業率は59.1%となり、半数以上が働いている

高齢者(65歳以上)有業率



福井県の年齢区分別有業者数 ※( )内は有業率

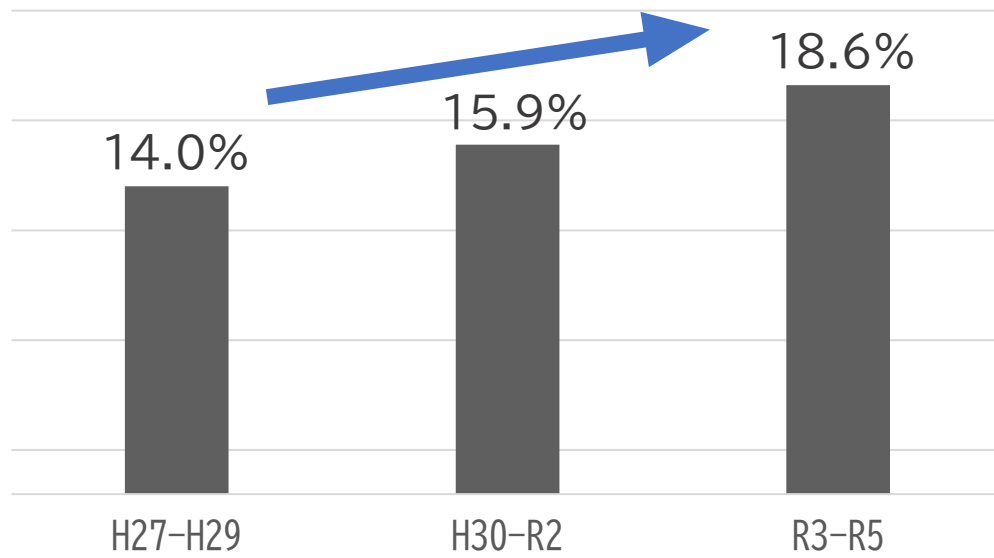


# 女性管理職登用について

○女性管理職の割合は、上昇傾向にある

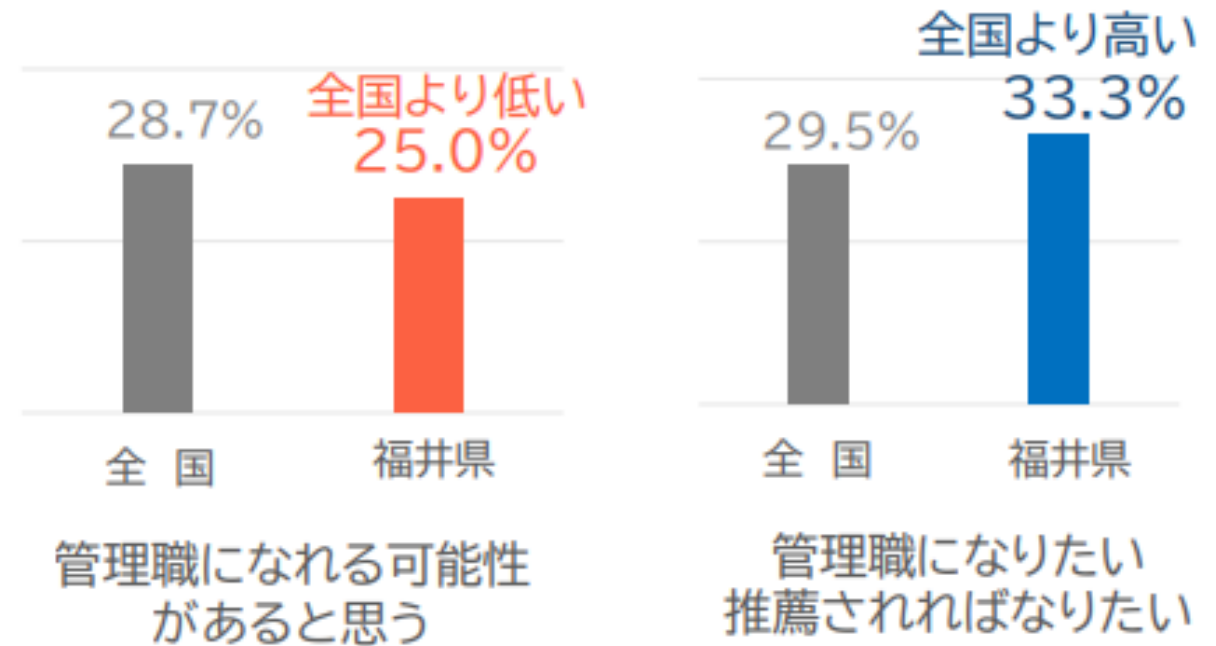
○女性の管理職への昇任意欲は、全国平均よりも高いが、管理職になれる可能性があると思う割合は全国平均よりも低い

① 女性管理職割合(福井県)



H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
17.3%	12.5%	12.1%	15.4%	15.3%	17.0%	20.0%	18.6%	17.2%

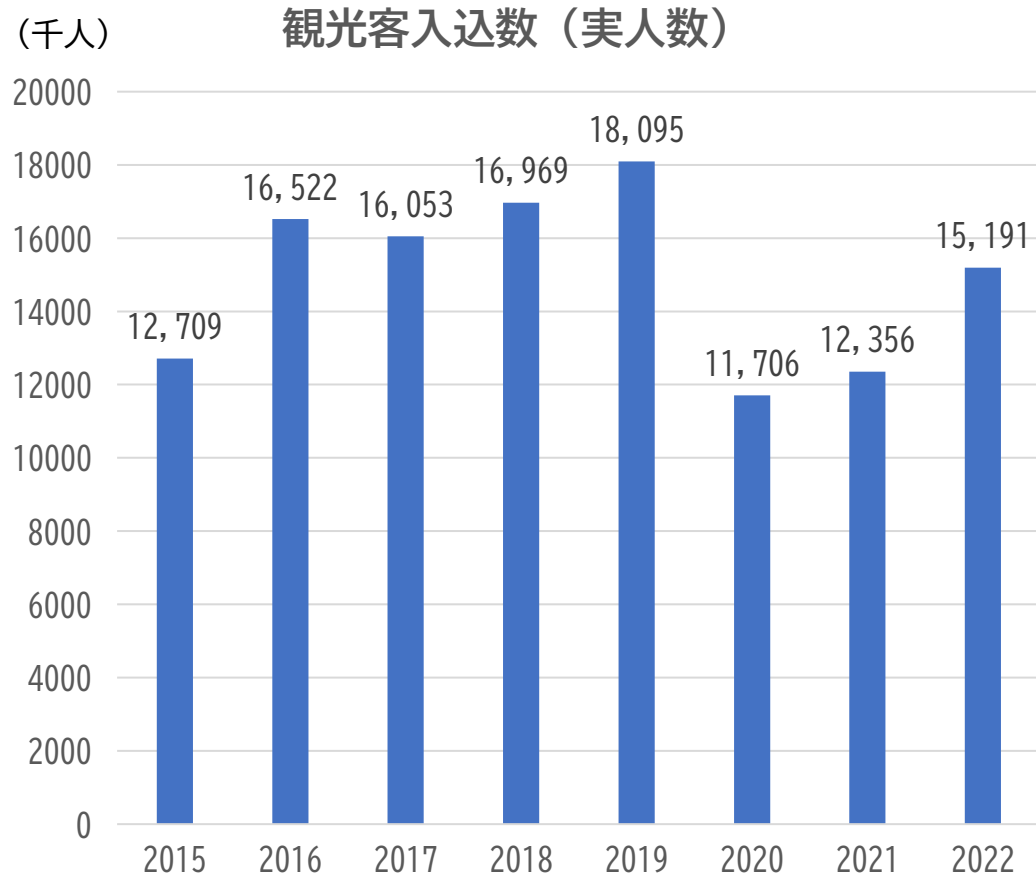
② 女性の管理職への昇任意欲



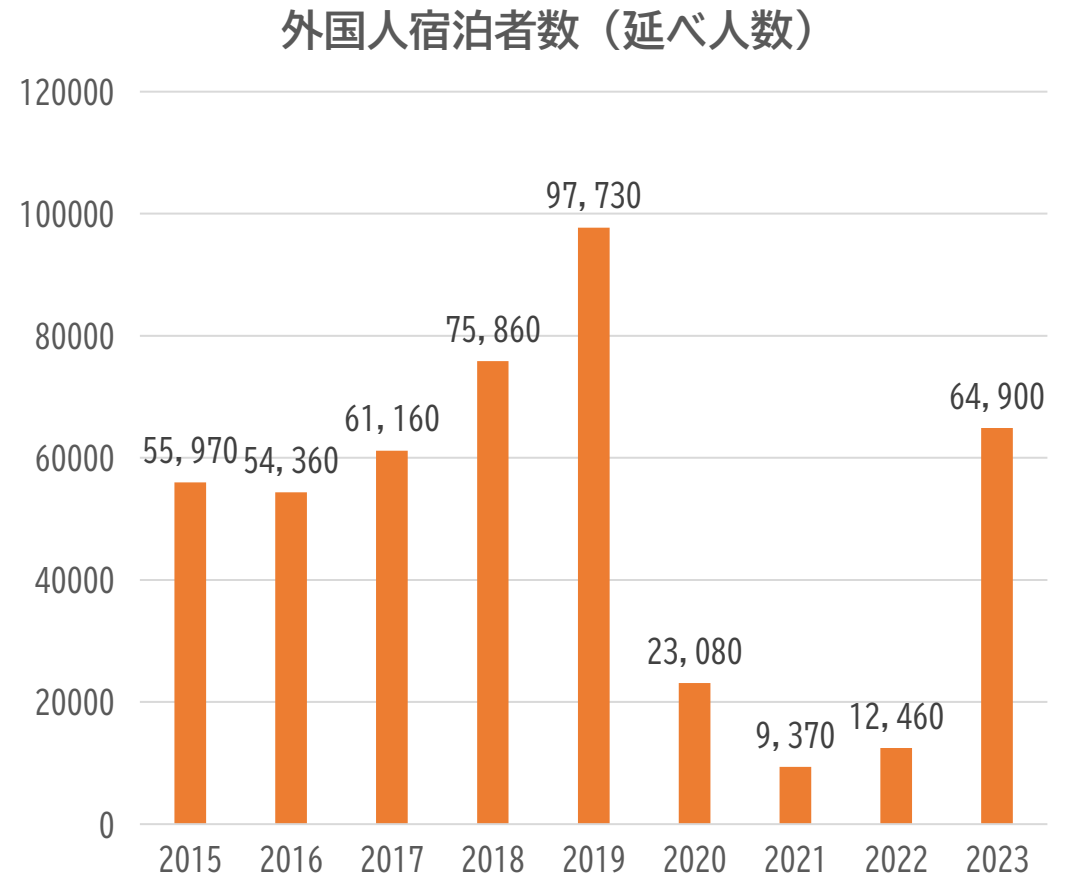
## 観光客の入込状況

○観光客の入込数は、コロナ禍により令和2年に大きく減少したが、回復傾向にある

○外国人宿泊者数は、令和5年度にようやく復調してきたものの、2023年の延べ人数は**全国46位**と低迷



出典：「福井県観光客入込数(推計)」



出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」<sup>-29-</sup>

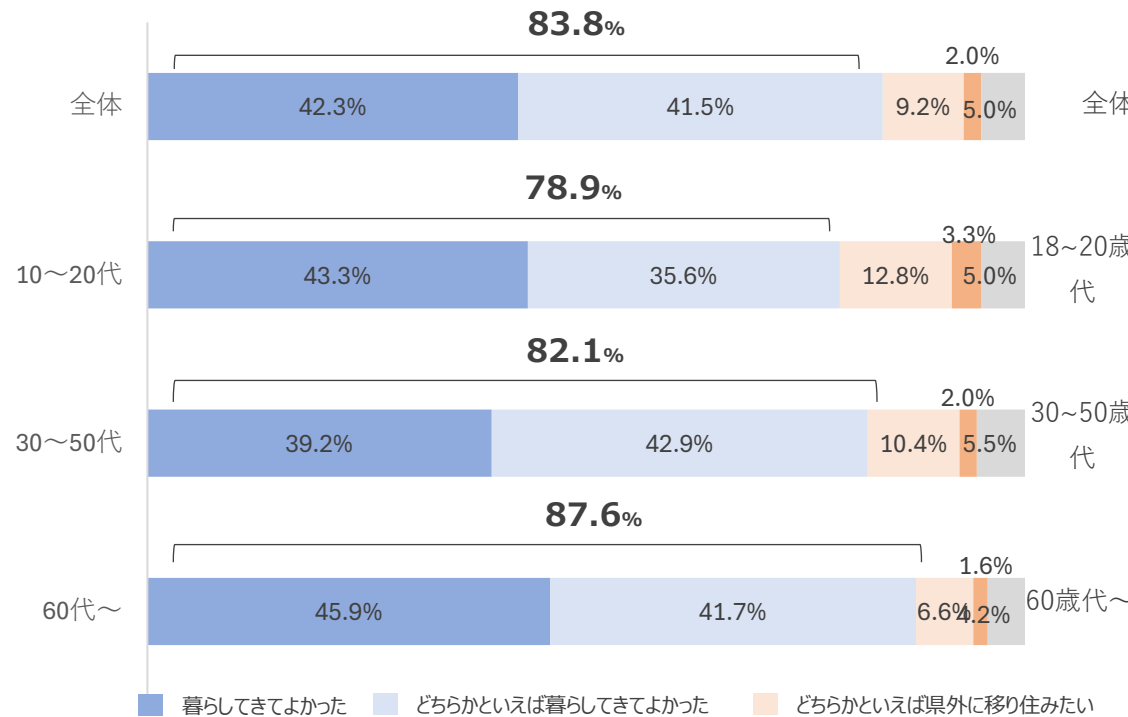
## 暮らしの満足度

○「暮らしてきてよかった」、「どちらかといえば暮らしてきてよかった」と回答した割合は、合わせて83.8%と80%以上を維持

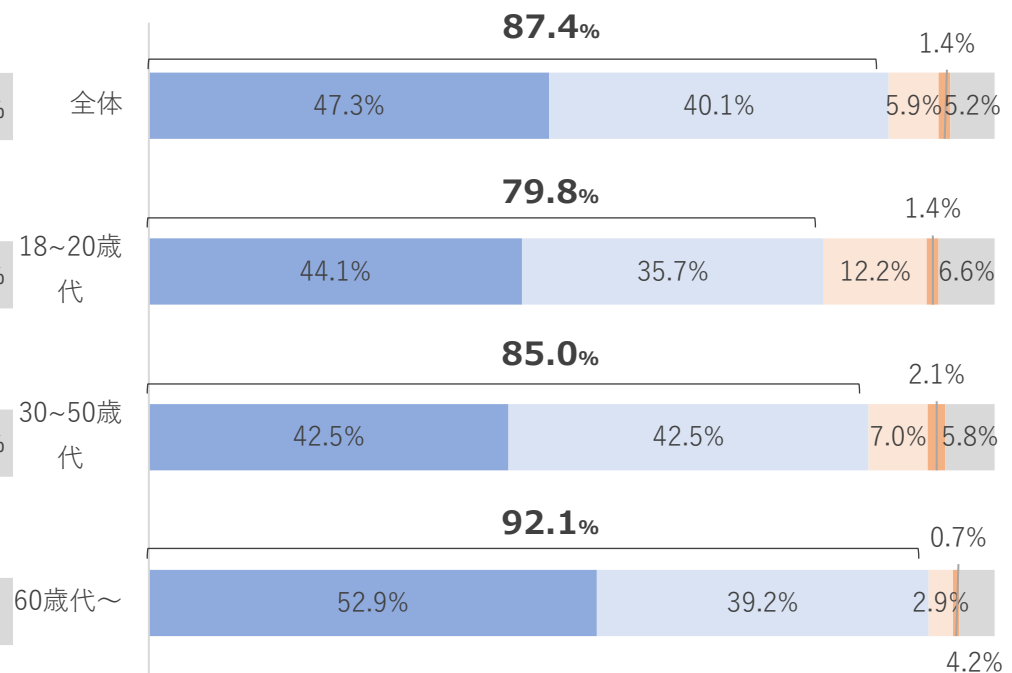
○年代別では、60代以上が最も高い87.6%。

問 あなたは自分が福井県に暮らしてきて良かったと思っていますか。

令和6年度



令和5年度

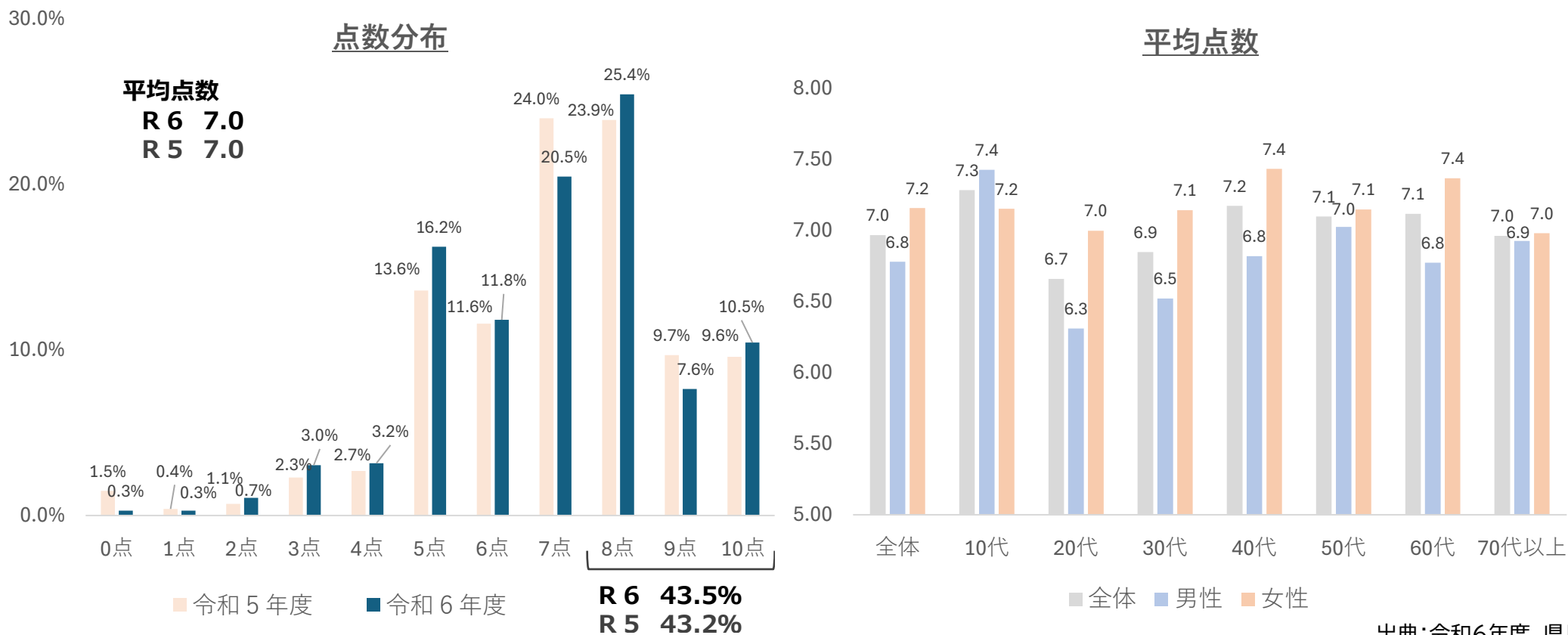


## 総合的幸福感

○「どの程度幸せですか」との質問に対し、11段階中「8点」を選択した人が25.4%で最多

○性別でみると、10代を除き男性より女性のほうが高い数値であった

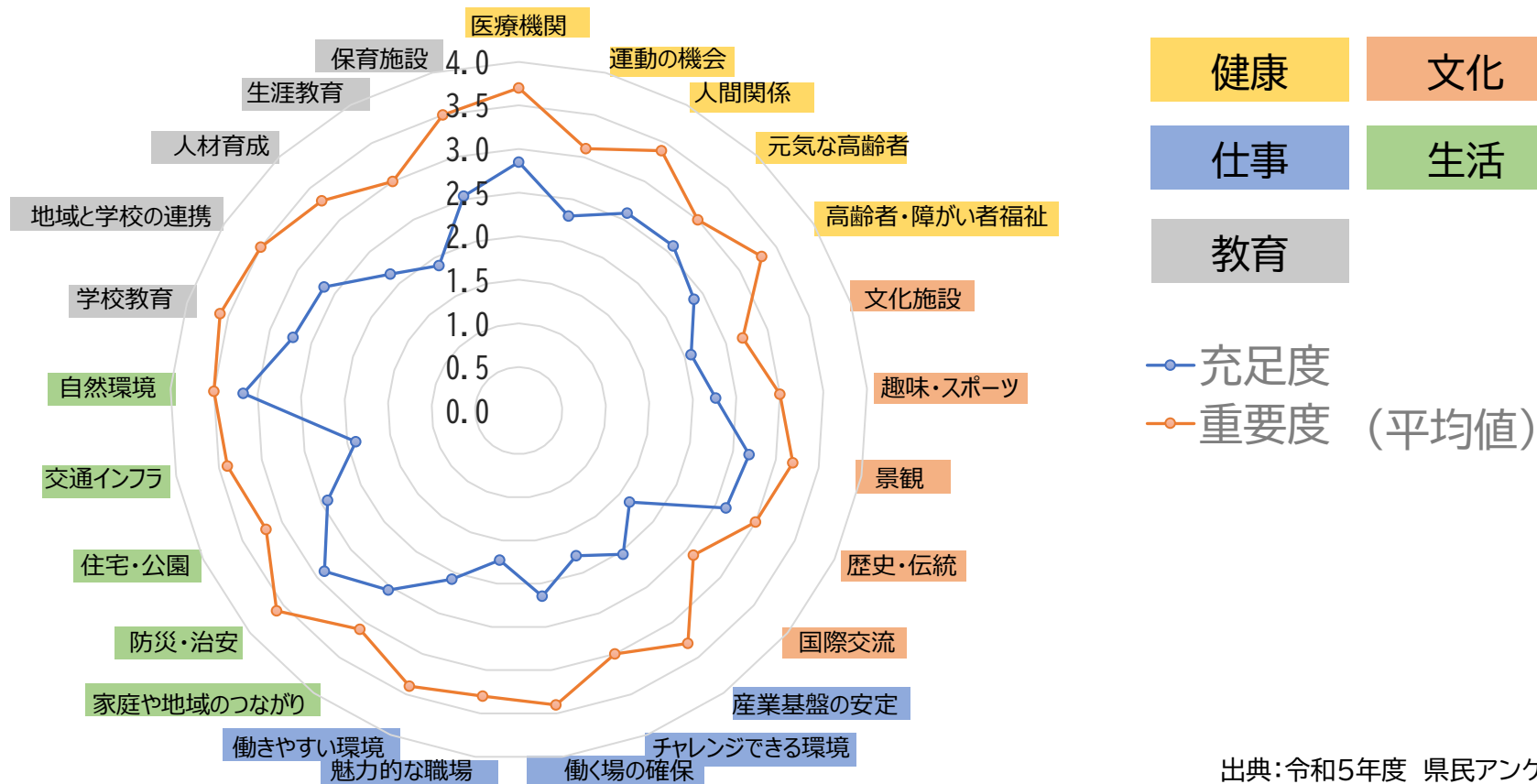
問 現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになりますか。



## 分野別充足度・重要度

- 現在の充足度・将来の重要度いずれも「生活」分野が最も高い
- 「仕事」分野は現在の充足度が最も低く、将来の重要度との乖離が最も大きい

問 本県の暮らしの「現在の充足度」と「将来の重要度」についてお聞きます。あなたは次の25の項目について現在のどの程度充足されていると考えますか。また、将来の福井県において、どの程度重要であると考えますか。（0点：充足されていない～4点：充足されているで評価）





## 家事・育児時間、ゆとり時間の状況

○6歳未満の子どもをもつ共働き夫婦では、家事・育児時間が女性に偏り、女性のゆとり時間が短くなっている

福井県の共働きの夫婦(夫婦ともに有業者)、6歳未満の子どもあり(週平均)

○家事・育児時間

	総平均時間
男性(夫)	2時間 1分
女性(妻)	<b>6時間20分</b>
差	4時間19分 女性が多い

○仕事時間

	総平均時間
男性	<b>5時間40分</b>
女性	3時間10分
差	2時間30分 男性が多い

○ゆとり時間

	総平均時間
男性	3時間13分
女性	2時間25分
差	48分 男性が多い

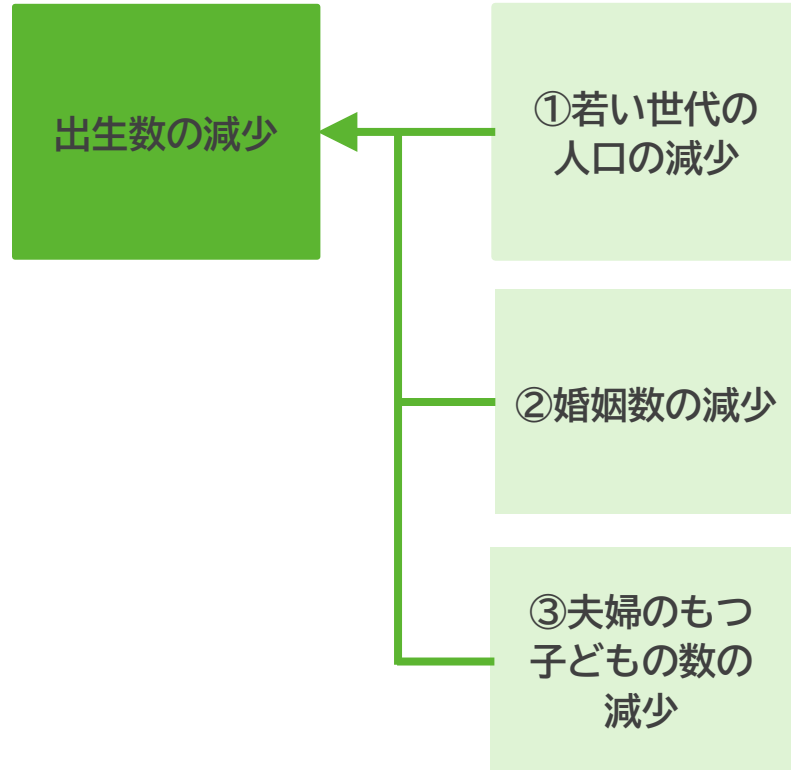
# 次世代ファースト戦略 現状データ集

# 福井県の人口減少の現状分析【人口減少の要因】

○結婚力、夫婦出生力ともに全国比較すると上位にあるものの、**婚姻件数**、**出生数**はともに**減少**を続けている。

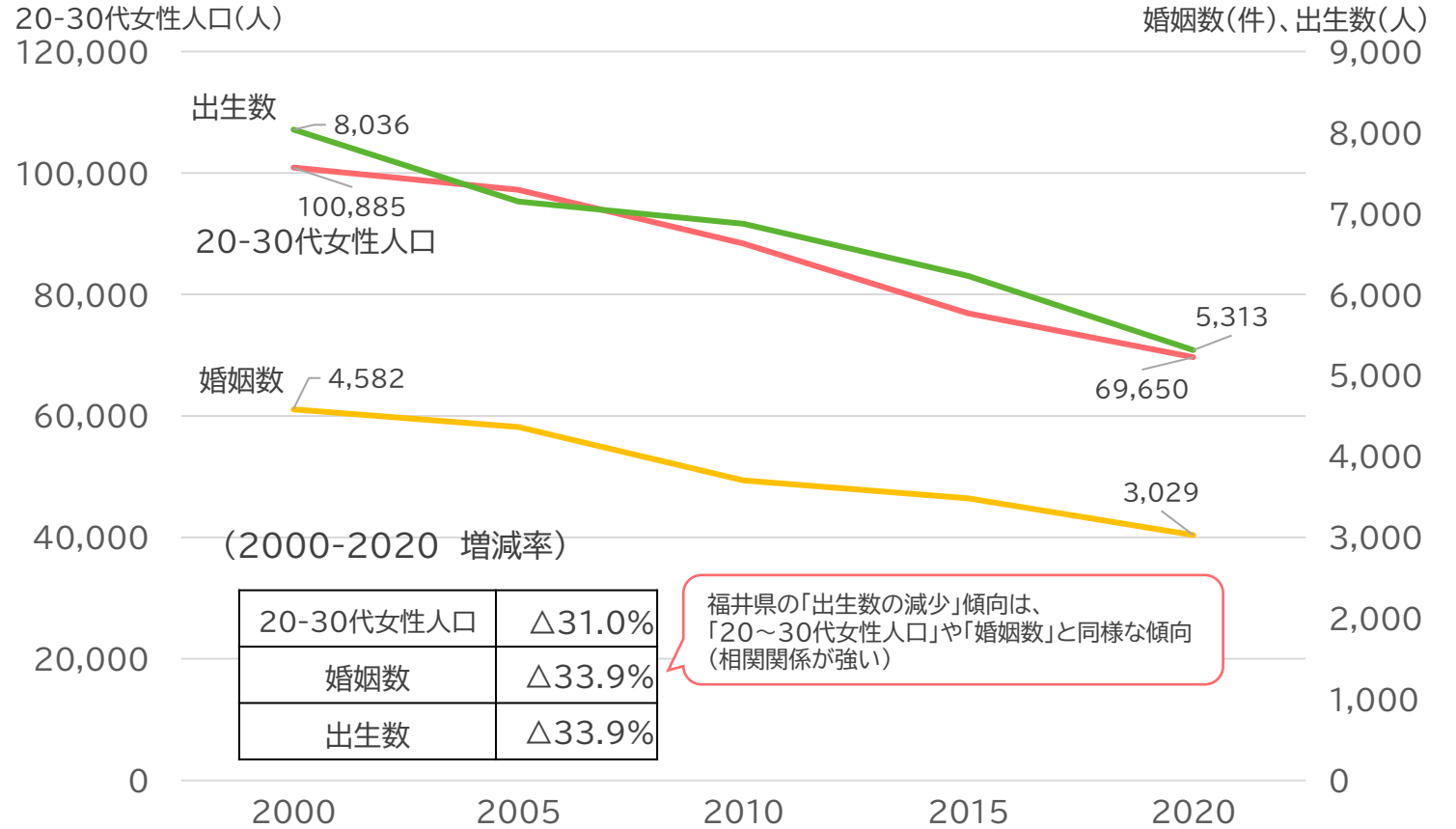
○出生数の減少の原因として、①若い世代（特に女性）の人口の減少、②婚姻数の減少、③夫婦の持つ子どもの数の減少が考えられる。

## ①【福井県】出生数の減少の3つの原因



## ②【福井県】20-30代女性人口と出生数・婚姻数

(出典:人口 総務省「国勢調査」、出生数・婚姻数 厚生労働省「人口動態統計」)



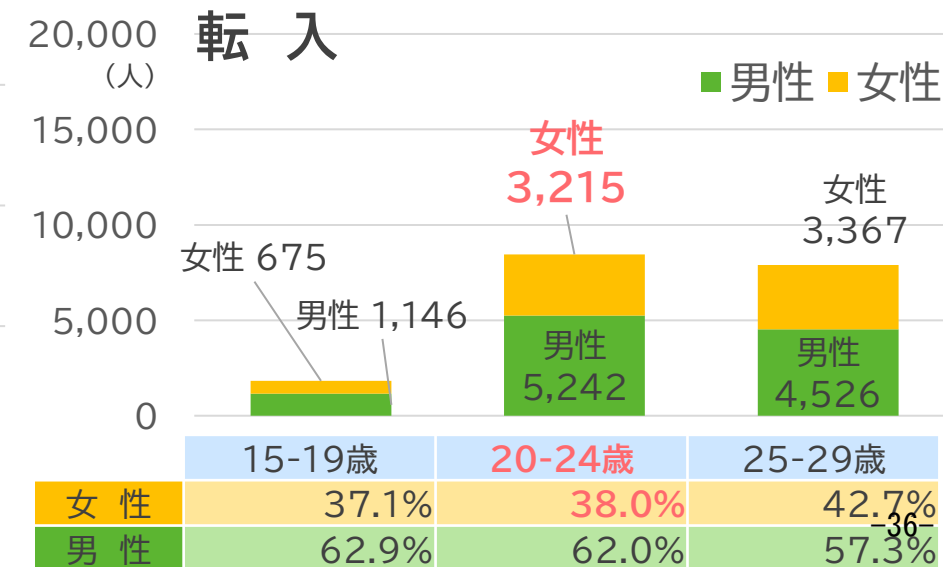
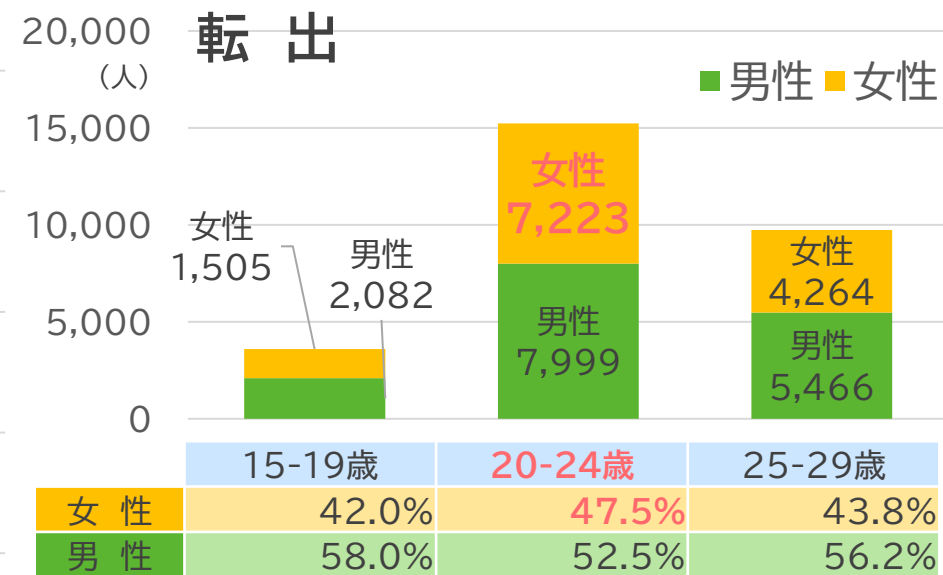
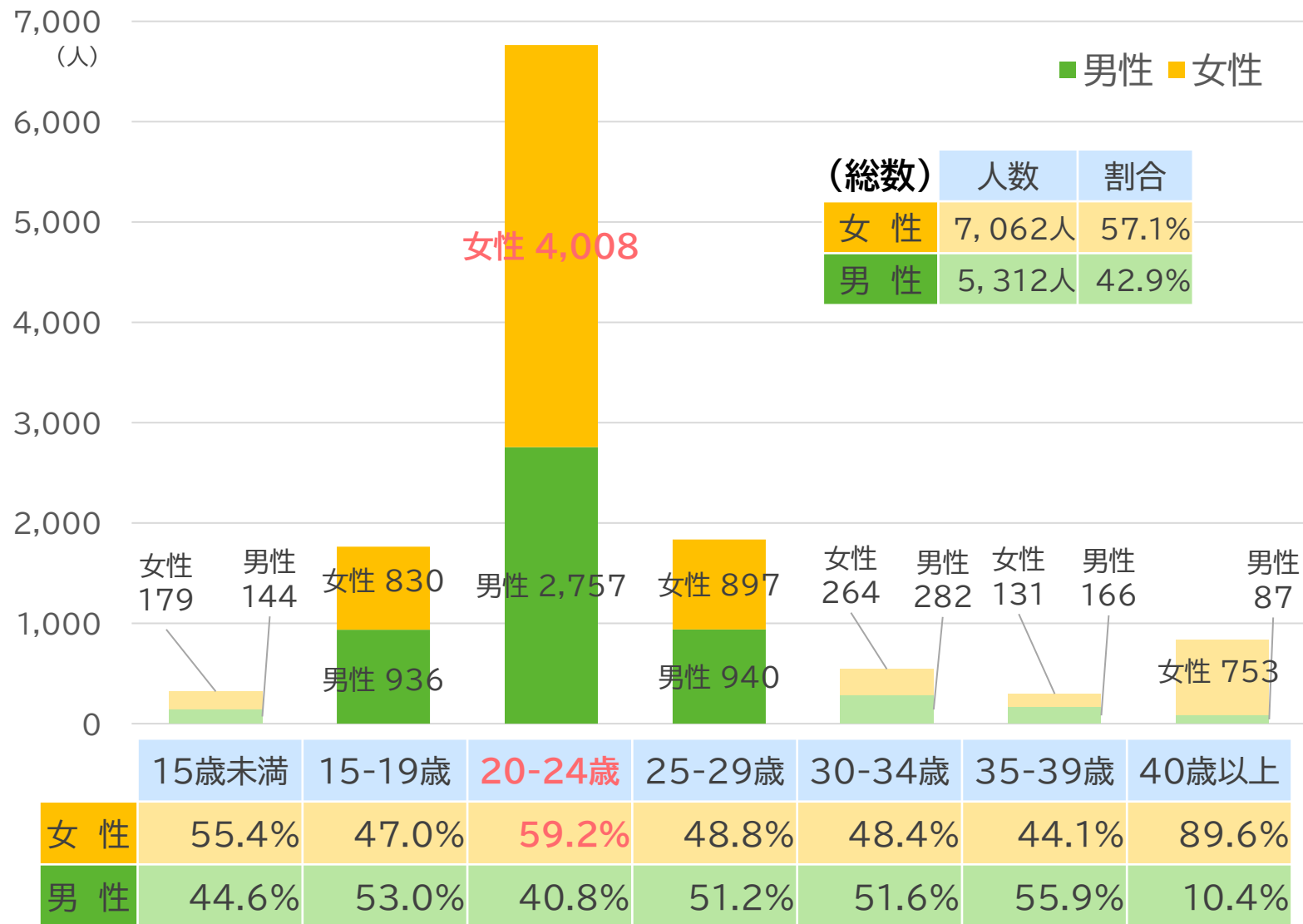
20-30代女性人口	100,885	97,214	88,382	76,890	69,650	(参考)2023
婚姻数	4,582	4,365	3,705	3,481	3,029	2,620
出生数	8,036	7,148	6,874	6,230	5,313	4,563

# 福井県の人口減少の現状分析【若い世代の転出】

○転出超過数を5歳刻みで見た場合、20-24歳が全体の半数以上を占め、うち女性が約6割（R1-R5で4,008人）を占めている。

○転入・転出に分解すると、傾向として、転入・転出ともに男性の方が多いものの、女性の転入数が少ないため、転出超過数で見ると女性の方が多くなっている。

①【福井県】転出超過男女割合(R1-R5) (出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」)



# 福井県の人口減少の現状分析【若い世代の転出（転出理由等）】

○地域の愛着が強いほど、また、高校時代までに地元企業を知るほど、Uターン意向が強まる。  
→具体的な進路を考える前段階から、地域を知り、地域に対する愛着を育む教育が重要

○大学等進学時や就職時、地元を希望しない主な理由は「志望との不一致」と「他県へのあこがれ」である。

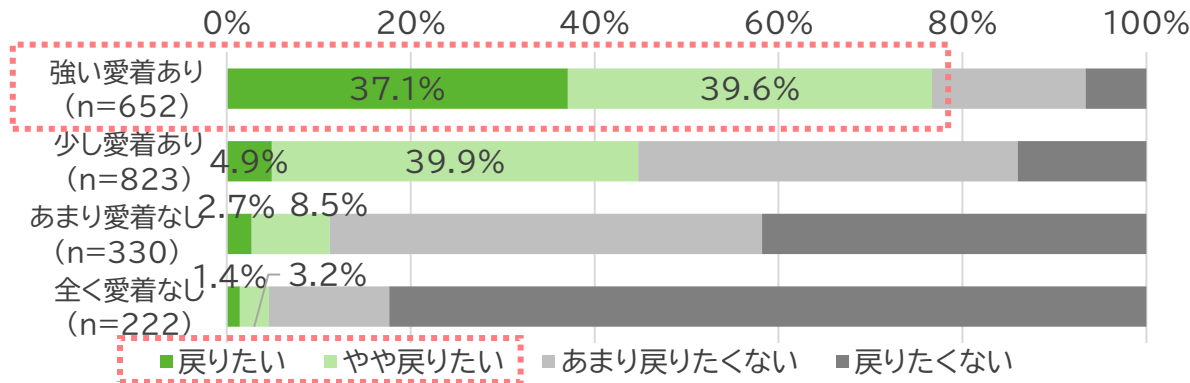
→大学生を中心とする、若者の県内大学進学、Uターン就職等を図るためには、下記2点が重要

- ・県内進学先の受け皿を増やすとともに、県内大学の学びと魅力の発信、学びの先にある就職・キャリアへの共感や魅力を感じてもらうこと
- ・県外出身者を含む県内大学生の県内就職率と県外進学者のUターン就職率の向上

## ①【全国】出身地への愛着有無別Uターン希望

(出典:労働政策研究・研修機構「調査シリーズNo.152「UIターン」の促進・支援と地方の活性化」(H28))

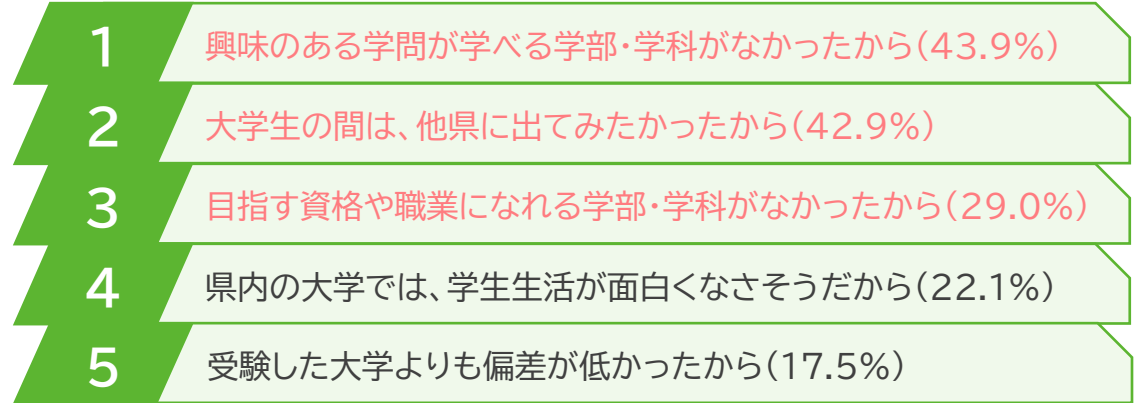
・地域への愛着が強いほど、Uターン意向が強い



## ③【福井県】県内大学・短大を希望しなかった理由

(出典:(株)進研アド 福井県高校生進路選択調査 調査結果サマリー(R5))

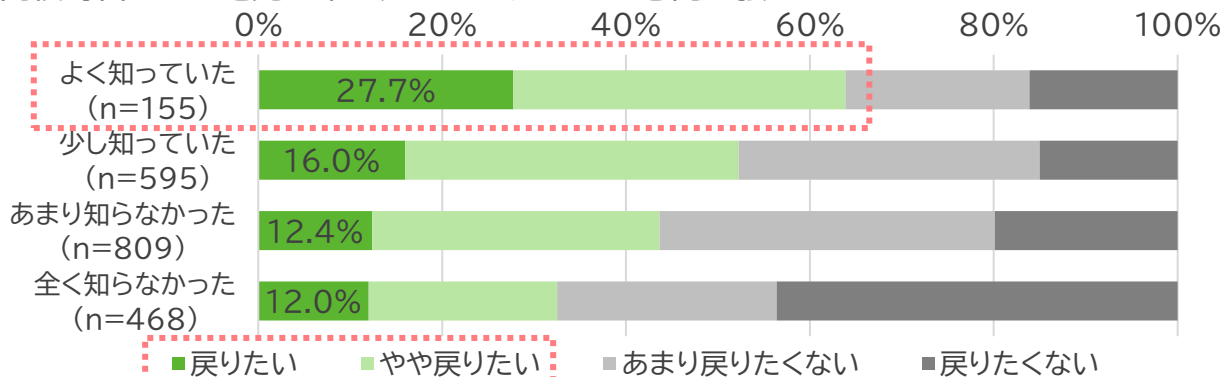
※高校3年生 ※複数選択



## ②【全国】地元企業の認知程度別Uターン希望

(出典:労働政策研究・研修機構「調査シリーズNo.152「UIターン」の促進・支援と地方の活性化」(H28))

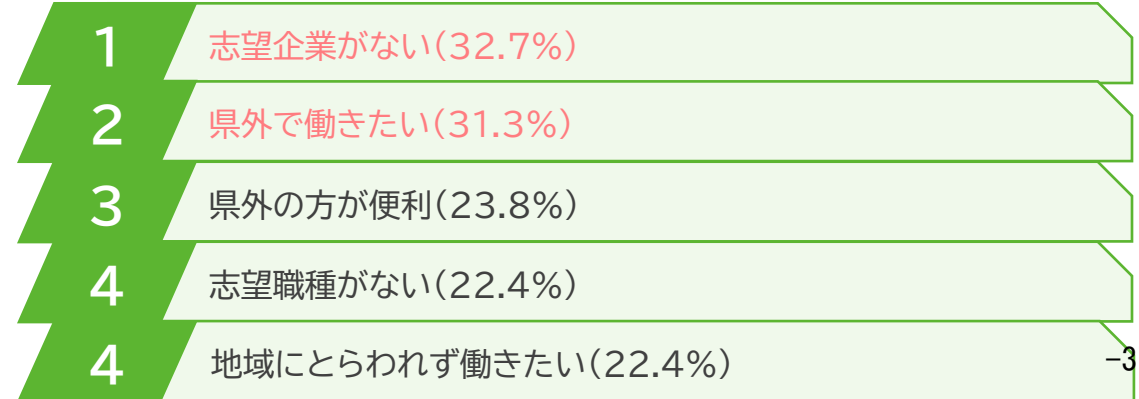
・高校時代までに地元企業を知るほど、Uターン意向が強い



## ④【福井県】地元就職を希望しない理由

(出典:新規卒者の県内就職に関する調査(R5))

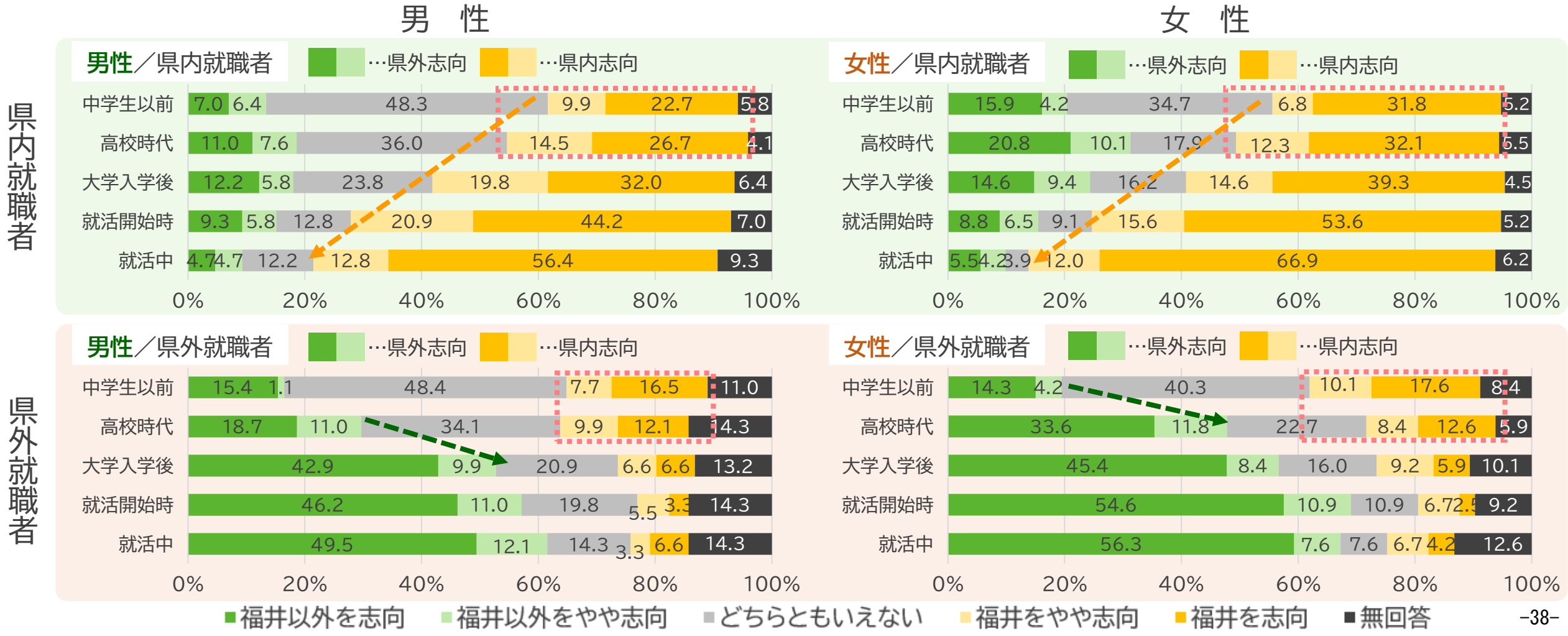
※令和5年3月に県内外の大学等を卒業したと見込まれる者 ※複数選択



# 福井県の人口減少の現状分析【若い世代の転出（志向の決定時期）】

- 県内就職者と県外就職者を比較すると、**中学生・高校生の時点で県内就職を志向する割合に大きな差がある。**
  - **県内就職者の県内志向**は、男女ともに中学時代から就活にかけて徐々に高まっている。-----➡
  - **県外就職者の県外志向**は、**男性が大学入学後、女性が高校時代に急激に高まっている。**-----➡
- 若者が就職先として県内を選択するためには、**高校生以前からの地元の愛着を育む教育の実施と、大学入学後の継続した働きかけが重要である。**

①【福井県】県内・県外就職意向の推移(性別、県内・県外就職別) (出典:新規学卒者の県内就職に関する調査(R5))

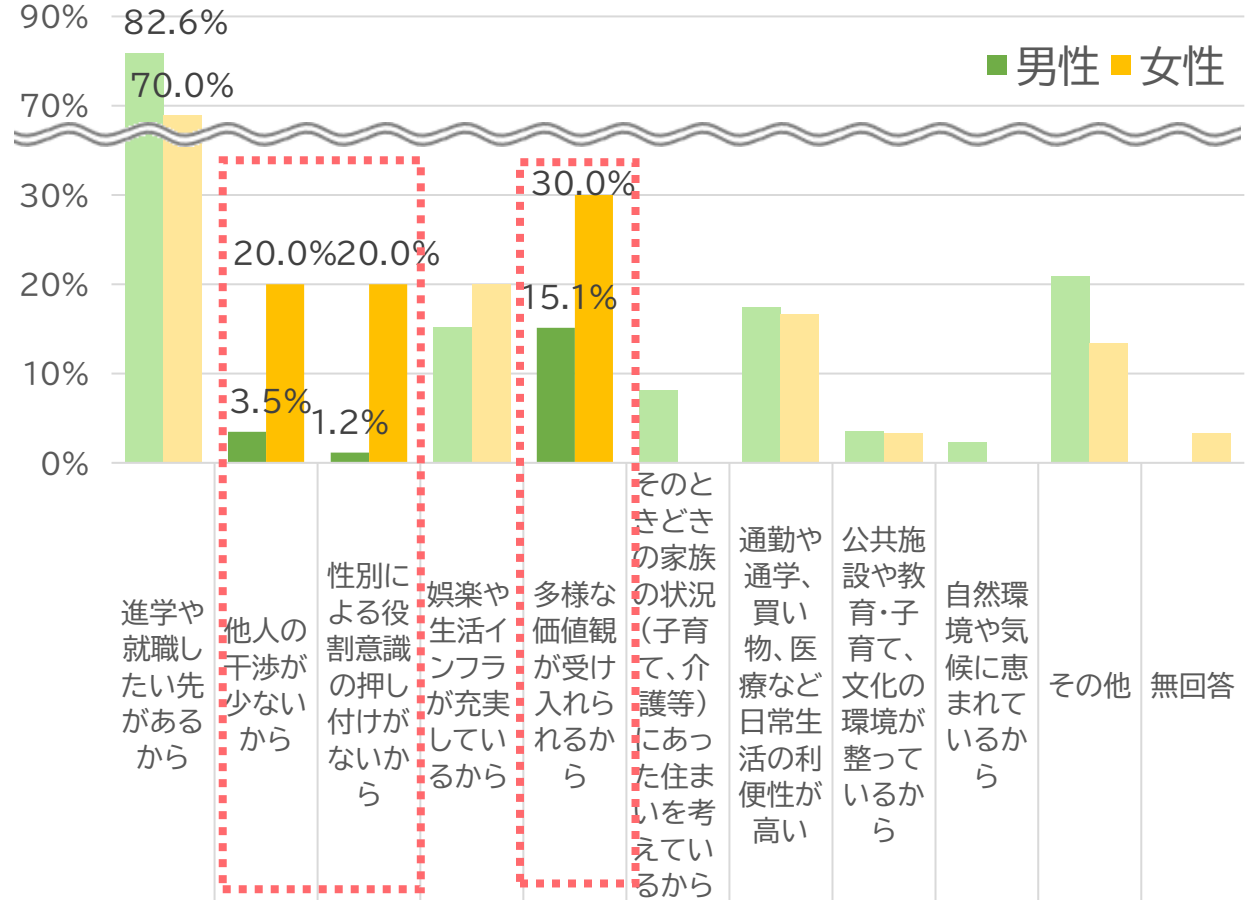


# 福井県の人口減少の現状分析【若い世代の転出（アンコンシャス・バイアス）】

- 県外転出のその他の理由として、特に女性では、「他人からの干渉が少ない」「性別による役割意識の押し付けがない」「多様な価値観が受け入れられる」ことが挙げられている。
- 男女役割意識や多様な価値観の受け入れ意識等について、家庭・職場・地域に分けて見ると、家庭における男女の役割意識は、若い世代を中心に薄れる傾向にあるものの、依然として男女差がある。

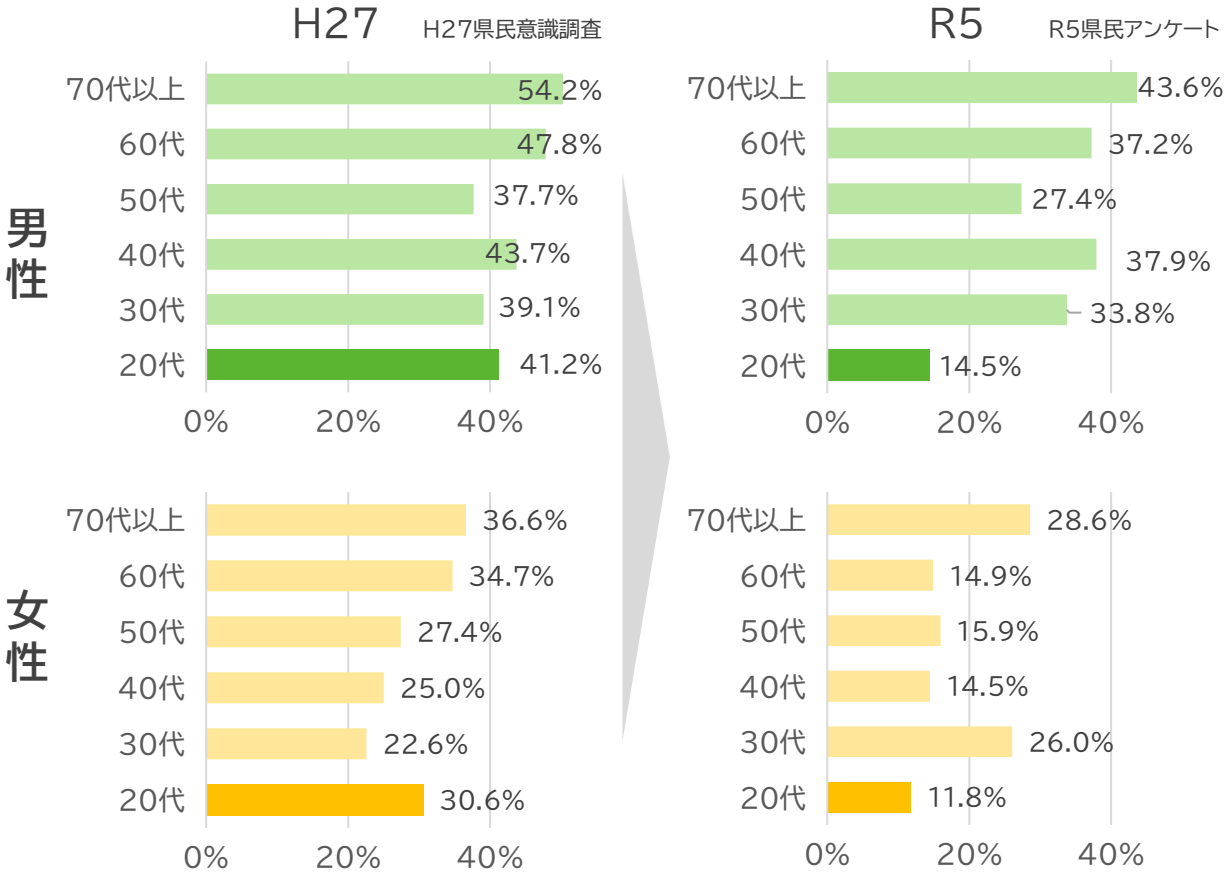
## ①【福井県】県外に居住地を移した理由(福井県調べ)

※福井県での居住経験がある県外在住者 ※複数選択  
 ・女性は男性に比べ、「他人の干渉」「性別による役割分担意識」「多様な価値観の受け入れ」を理由に県外に移住した割合が高い (n=116)



## ②【福井県】「男は仕事、女は家庭」といった考えに賛成と回答した割合

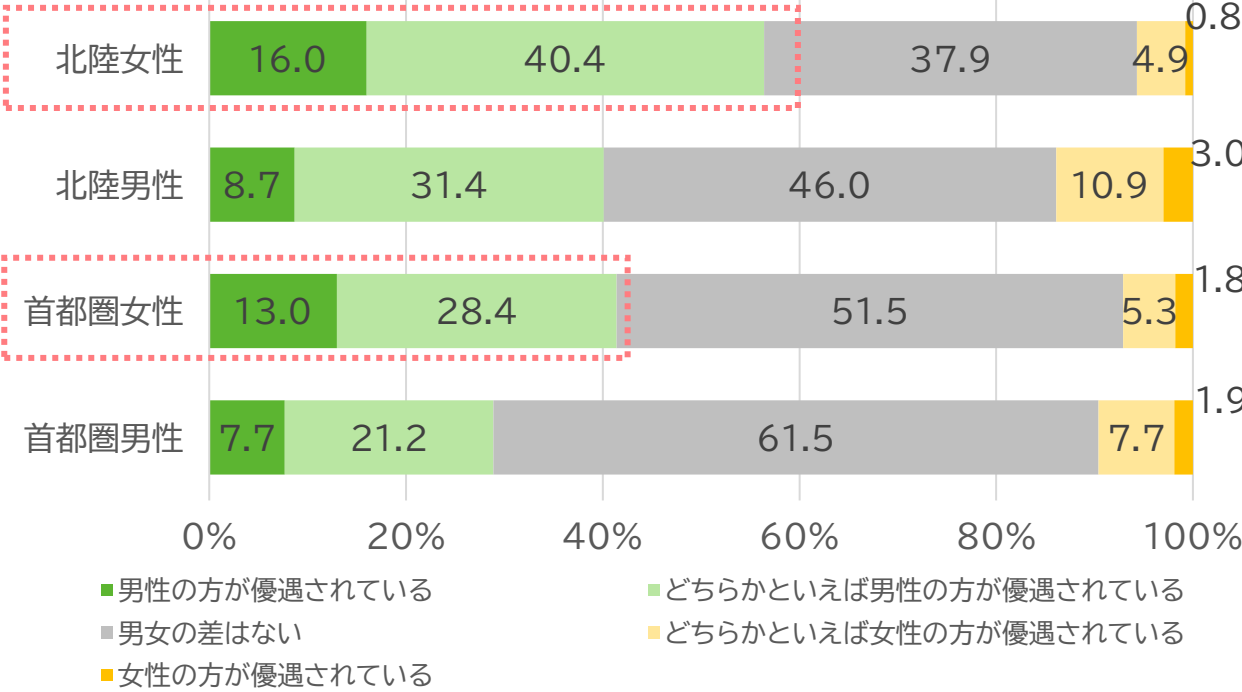
(福井県「福井県長期ビジョンの実現に向けた県民アンケート」等)  
 ・40代以上で男女の意識の差が大きく、20代は男女の意識差は少なくなっている



# 福井県の人口減少の現状分析【若い世代の転出（アンコンシャス・バイアス）】

- 職場においては、北陸の女性は全国に比べ性別により男性が優遇されていると感じる割合が高く、特に来客対応、お茶出し等は主に女性が行っていると感じている割合が高い。
- 地域においては、民間シンクタンクの調査によると、本県は新しい/他の考え方に対する寛容性が低い。  
→ 家庭、職場、地域の各場面において無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）に気づき、理解促進を図る必要がある。

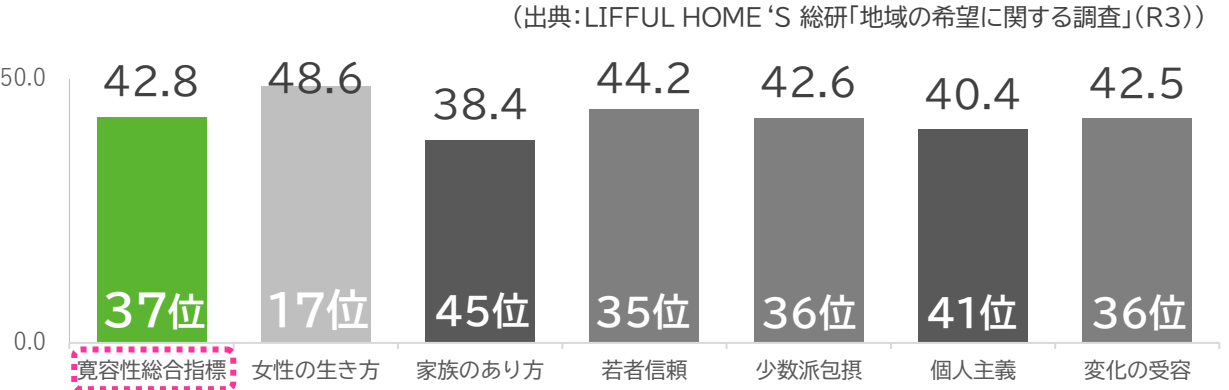
### ③【北陸】職場における性別による待遇の違い (北陸経済連合会「女性の就業意識に関する実態調査」(R5))



### ◆勤務先における性別役割分担の偏り

(来客対応、お茶出し、お菓子配りなどの庶務を誰が担っているか)  
北陸女性は「主に女性」(75.2%)「男女両方」(13.9%)と、大幅に女性への偏りを感じている一方で、首都圏女性は「主に女性」(36.7%)「男女両方」(30.8%)と拮抗している。  
重要な仕事を任せられる、仕事を休んで家族を看護・介護するについても、首都圏より北陸で、一方への性への偏りが強く表れている。

### ④【福井県】福井県の地域の寛容性 全国順位(偏差値)



各項目イメージ (赤字：マイナス要素 青字：プラス要素)	
女性の生き方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性は家庭や子育てを最優先するべきだと思える人が多い</li> <li>・女性の頑張りを積極的に応援する社会の空気がある</li> </ul>
家族のあり方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚した夫婦は男の子を産むことを期待される</li> <li>・結婚しないで独身で生きても肩身の狭い思いをすることは少ない</li> </ul>
若者信頼	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先輩後輩や年上年下などの上下関係に厳格な人が多い</li> <li>・若者の挑戦を応援する気風がある</li> </ul>
少数派包摂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手の出自(出身地、血縁関係など)を気にする人が多い</li> <li>・人種差別やマイノリティ差別に繊細な注意を払う人が多い</li> </ul>
個人主義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普通であること、みんなと同じであることを求める人が多い</li> <li>・一人一人の個性や価値観はなにより尊重される</li> </ul>
変化の受容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長く積み上げてきたやり方やルールを変えるのに抵抗を感じる人が多い</li> <li>・リスクをとって新しい試みに挑戦する人が尊敬される</li> </ul>

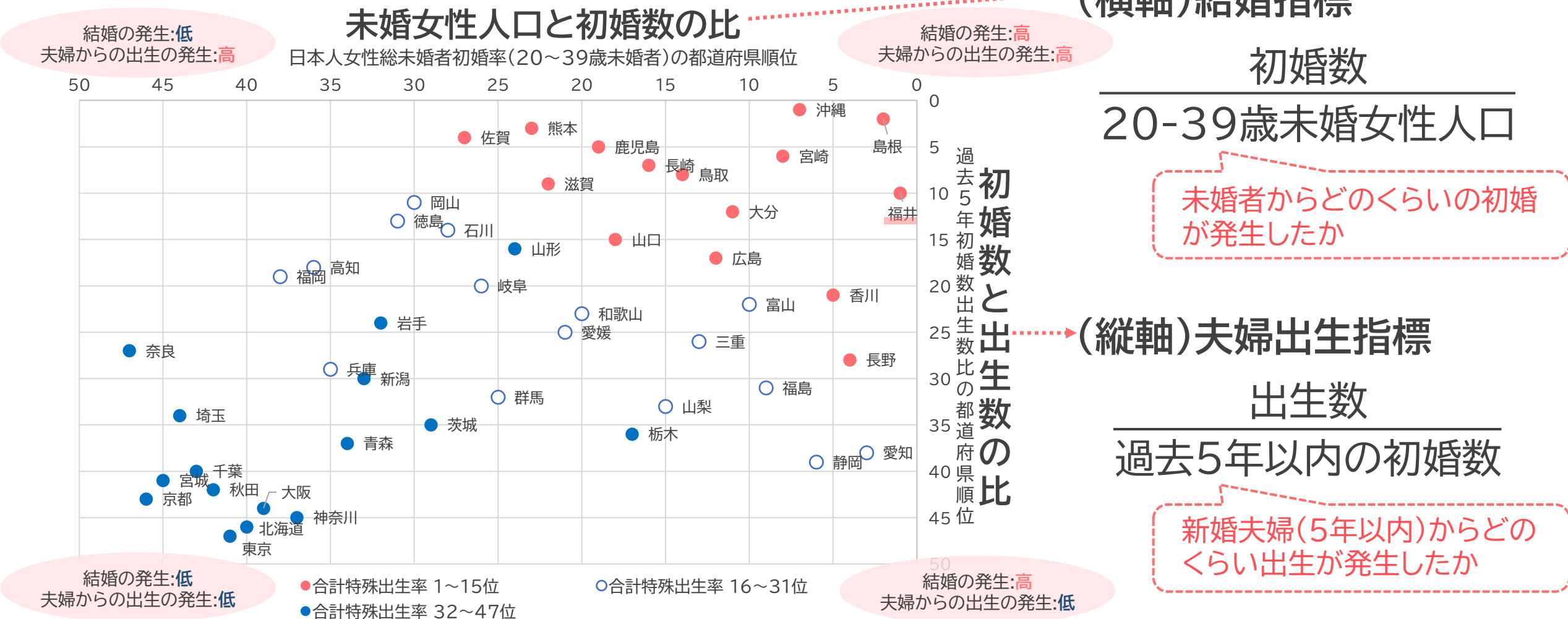


# 福井県の人口減少の現状分析【結婚・夫婦の出生動向】

○現状として、婚姻数、出生数は減少傾向にあるものの、20-39歳未婚女性人口と初婚数の比（結婚指標）と過去5年以内に起きた初婚数と出生数の比（夫婦出生指標）を都道府県別に見ると、本県は**いずれも全国上位**に位置する。（結婚指標 1位、夫婦出生指標 10位）

## ①都道府県別 結婚指標と夫婦出生指標

（出典：総務省「国勢調査」(R2)、厚生労働省「人口動態統計」(R2)）

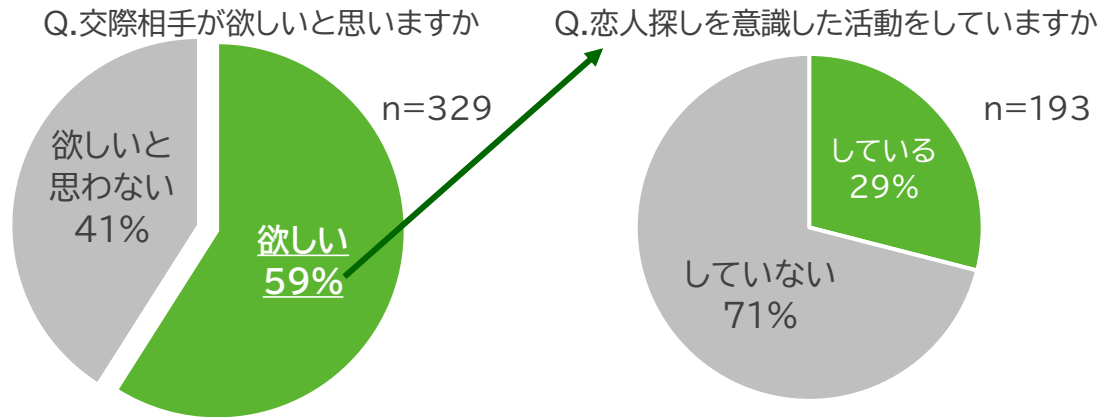


# 福井県の人口減少の現状分析【婚姻（恋愛、婚活）】

- 交際相手が欲しいものの、「活動方法がわからない」「自信がない」などの理由で、恋人探しに踏み出せない方も多く、20～30代の若者のうち、**恋人がいた経験のない割合は男性で約37%、女性で約21%に上っている。**
- 30代で婚活を経験する割合が男性で約32%、女性で約40%である一方、**20代の婚活経験者は男女ともに10%台である。**
- 子（独身者）の約半数は20代後半までに結婚したいと考えているが、**20代後半までに結婚してほしいと考える親の割合はそれよりも低い。**  
→ **子（独身者）が希望する結婚時期と恋人探しの活動時期にミスマッチが見られ、その背景に親の意識が関与している可能性。**

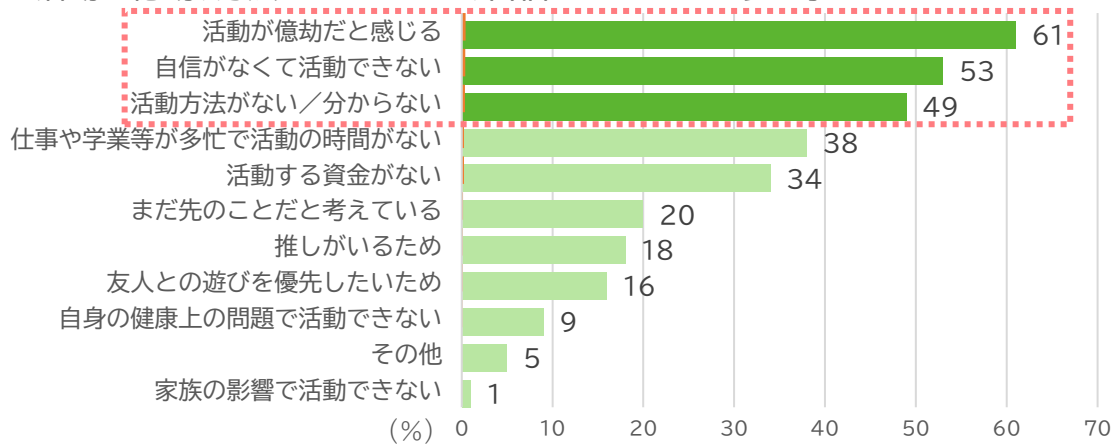
## ①【福井県】交際意欲、恋人探し活動の実態（出典：福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6)）

・「交際相手が欲しい」と回答した者のうち、約7割が恋人探しをしていない



## ②【福井県】恋人探しをしない理由（出典：福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6)）

・活動が億劫、方法がわからない、自信がないなどが多く挙げられる



## ③【福井県】交際経験の有無(20～30代)（出典：福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6)）

・20～30代の男性の37%、女性の21%が交際経験なし

	交際経験あり	交際経験なし	回答なし
男性	55.3%	37.0%	7.7%
女性	59.2%	21.4%	19.4%

## ④【福井県】婚活をしたことがある割合（出典：福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6)）

・20代の婚活経験者は男性が15%、女性が13%

	20代	30代
男性	15.0%	31.9%
女性	12.6%	40.3%

## ⑤【全国】20代後半までの結婚希望割合（出典：明治安田生命研究所「親子の関係についての意識と実態(H28)）

・子どもと親の結婚の年齢に関する考え方にギャップがある(特に息子と母親)

		息子	娘
希望割合	子ども本人	46.2%	58.1%
	父親	36.5%	47.0%
	母親	25.0%	44.9%

# 福井県の人口減少の現状分析【婚姻（結婚）】

- 20～39歳までの未婚者の約7割は結婚意欲があるが、年齢が上がるにつれて結婚意欲は低下する傾向にある。
  - 男女とも20代後半の未婚率は微増にとどまる一方で、30代の未婚率は比較的強い上昇傾向にあり、特に女性の未婚率の上昇が大きい。
  - 初婚夫婦の年齢差は3歳差以内が約7割であり、結婚意欲のある同年代同士が出会った方がマッチングの可能性が高い。
  - 結婚年齢の最頻値は男女ともに26歳であり、最頻値を過ぎると女性も男性も独身者の数が減少する。
- 若いころに婚姻意欲があったが、年齢を重ねるにつれ、マッチングの難しさが増し、結婚意欲が低下することで、未婚化が進んでいる可能性。

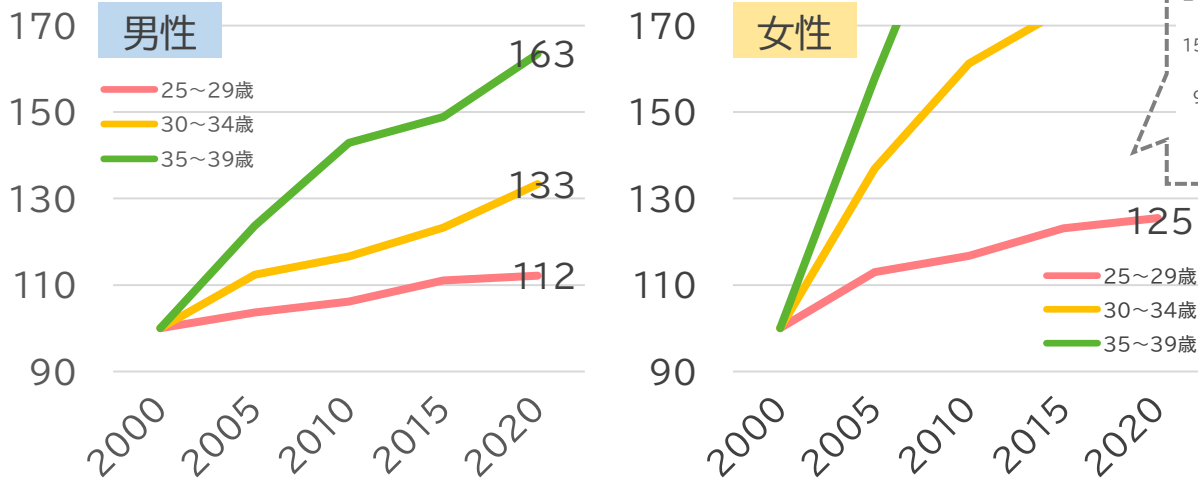
## ①【福井県】年代別結婚意欲 (出典:福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6))

・年齢が高くなるにつれ、結婚を希望する割合が下がる

年代	結婚意欲あり計		結婚意欲なし計	まだわからない
	できるだけ早く結婚したい	いずれは結婚したい		
20-24	18.4%	57.4%	75.9%	8.5%
25-29	17.9%	54.1%	71.9%	6.1%
30-34	12.2%	50.4%	62.6%	9.9%
35-39	7.7%	23.1%	30.8%	15.4%
総計	16.2%	53.2%	69.4%	8.1%

## ②【福井県】年齢階級別未婚率の推移(2000年=100) (出典:総務省「国勢調査」)

・20代後半の未婚率は微増にとどまる一方、30代の未婚率は比較的強い上昇傾向



## ③【全国】夫婦の平均年齢差

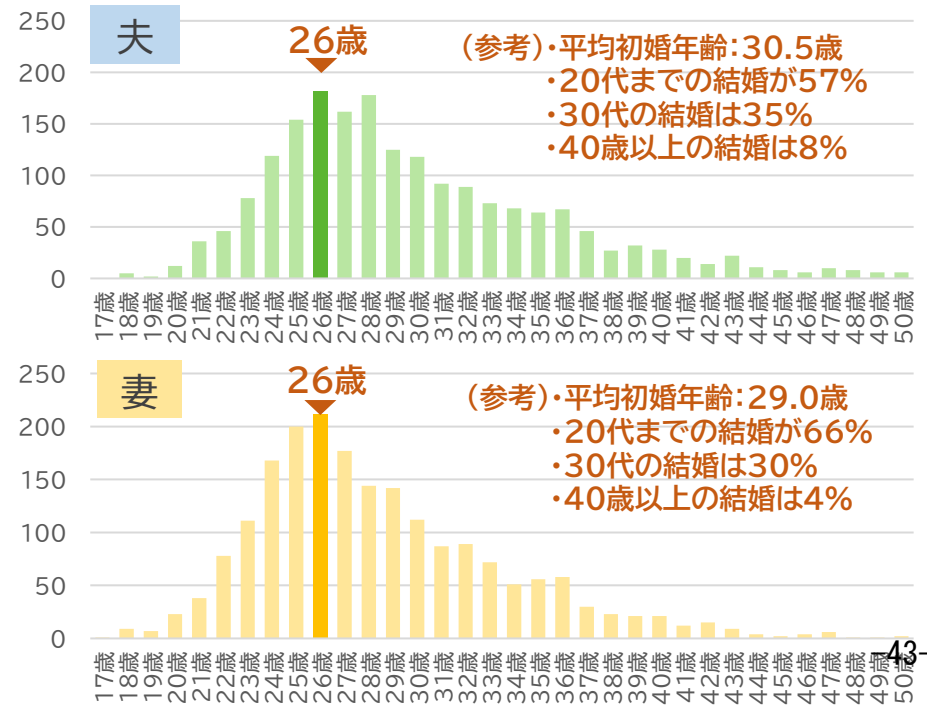
(出典:内閣府2021年「人生100年時代の結婚と家族に関する研究会」(2019年人口動態調査より作成))

3歳差以内の初婚同士夫婦の割合 **69%**

[内訳] 妻年上(1歳差) 10%、妻年上(2歳差) 5%、妻年上(3歳差) 3%  
 夫婦同年齢 21%  
 夫年上(1歳差) 14%、夫年上(2歳差) 9%、夫年上(3歳差) 7%

## ④【福井県】初婚夫婦の年齢別婚姻人数 (出典:人口動態統計(R4))

・男女ともに結婚年齢の最頻値は26歳



# 福井県の人口減少の現状分析【婚姻（支援について）】

- 恋愛や結婚について行政の支援を必要とする若者の割合は、年代や性別と関係なく約5割である。
- 女性は男性に比べ、“婚活”を知られることへの抵抗感がある方の割合が高く、20代で約6割、30代で約5割の女性が婚活を知られることに抵抗がある。
- 結婚意欲のある方が結婚に至っていない理由として、出会いの不足と経済的不安が挙げられている。
  - 婚活色を抑えたイベント開催など、若者のニーズに合わせた出会いの機会を創出することが求められる。
  - 結婚促進の観点からも、経済停滞期に育った若者の経済的不安の解消のため労働環境の改善が重要である。

## ①【福井県】恋愛や結婚について、行政の支援の必要性

(出典:福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6))

男性	20代	30代
支援が必要	50.3%	50.0%
支援の必要はない	49.7%	50.0%

女性	20代	30代
支援が必要	43.2%	45.8%
支援の必要はない	56.8%	54.2%

## ②【福井県】婚活をしていることを周囲に知られることへの抵抗感

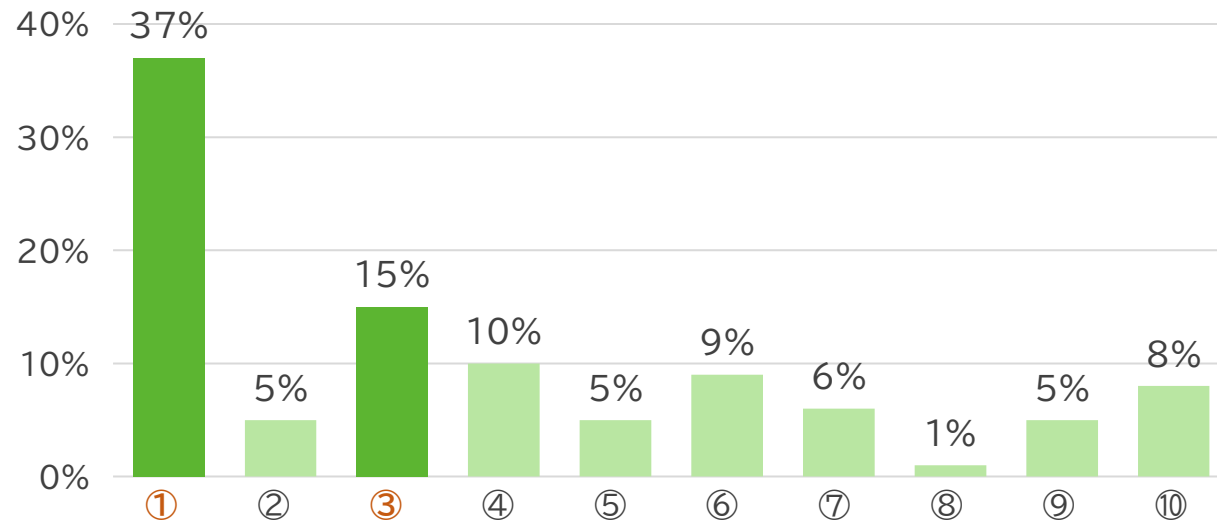
(出典:福井県「結婚子育てニーズ調査」(R6))

男性	20代	30代
ある	14.3%	18.1%
少しある	25.9%	20.8%
あまりない	24.5%	23.6%
ない	35.4%	37.5%

女性	20代	30代
ある	28.9%	15.3%
少しある	32.6%	36.1%
あまりない	20.0%	25.0%
ない	18.4%	23.6%

## ③【福井県】結婚意欲のある方が、結婚に至っていない理由

(出典:福井県「福井県子育て意識調査」(R5))



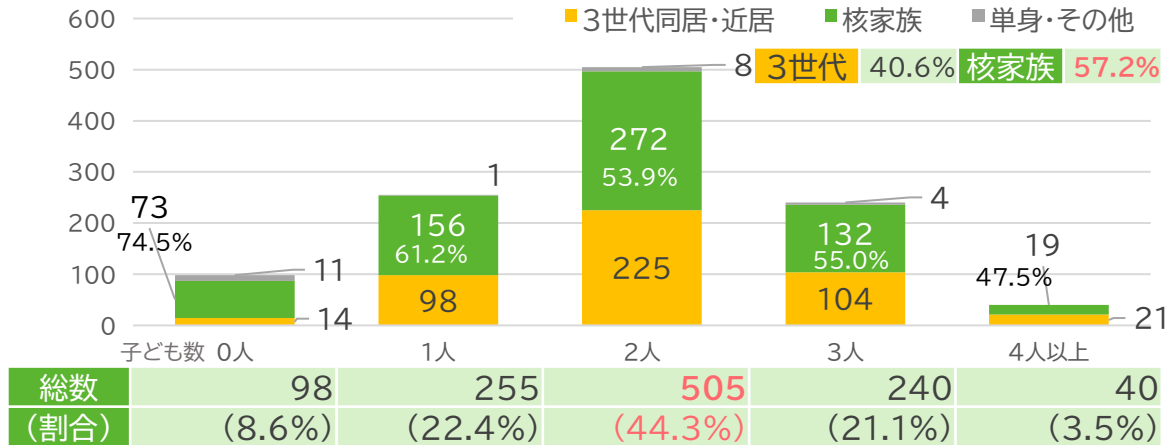
① まだ適切な相手と巡り会っていない	⑥ まだ独身生活を楽みたい
② 異性とうまくコミュニケーションが取れない	⑦ 仕事が多忙で出会いづくりに支障が生じている
③ 結婚資金が足りない・結婚生活にお金がかかる	⑧ 親や周囲が結婚に賛成していない
④ 結婚するにはまだ年齢的に若い	⑨ 現在婚約中
⑤ うまく結婚生活を送る自信がない	⑩ その他

# 福井県の人口減少の現状分析【出生（子育て世帯の状況）】

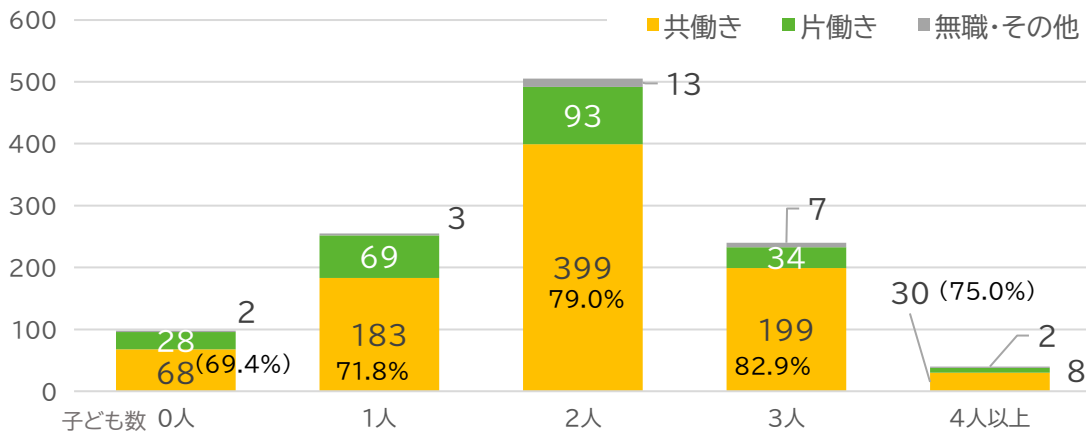
- 県調査結果では、既婚者の世帯構成について、調査対象者の約57%が核家族である。
- また既婚者世帯の就業状況について、子の数に関わらず調査対象者の大半が共働きである。
- 子育て世帯が子育てに関して負担に感じている点は、主に肉体的・経済的負担と、仕事との両立の困難さ・ゆとり時間のなさが挙げられている。  
→ 子育てしやすい環境づくりのため、労働環境の改善（夫婦のワークライフバランス向上等）や家事・育児の負担軽減（省力化・外部化）が重要

## ①【福井県】既婚者の世帯構成 (出典:福井県「福井県子ども・子育て調査」(R5))

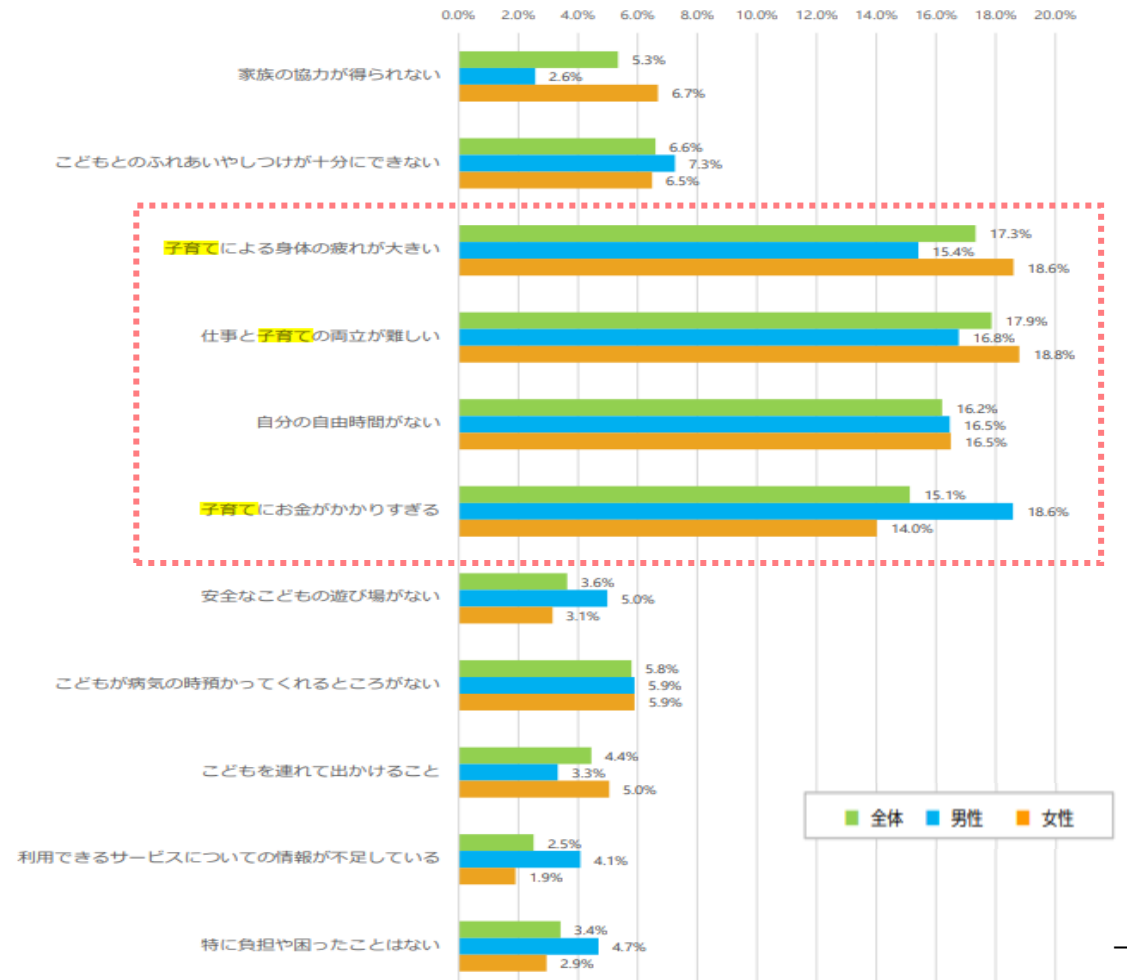
・子2人の世帯が44%と最も多い



## ②【福井県】既婚者世帯の就業状況 (出典:福井県「福井県子ども・子育て調査」(R5))



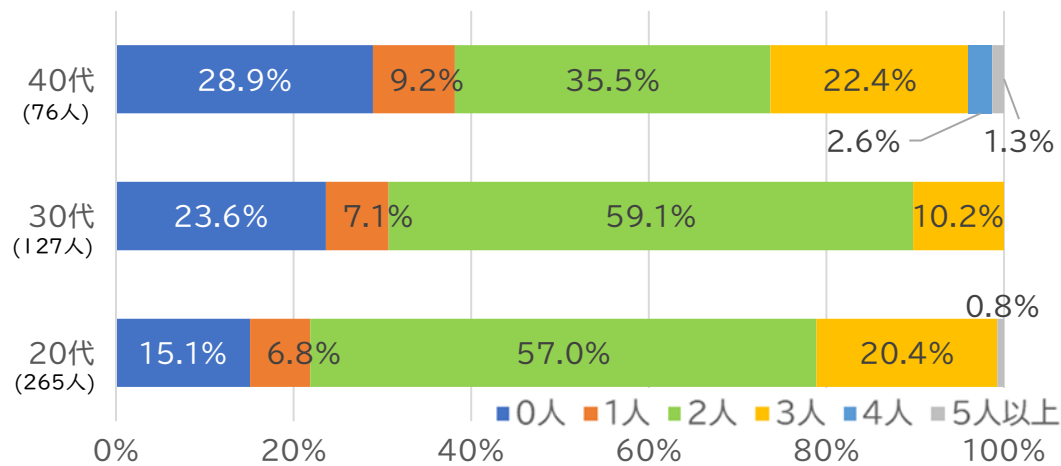
## ③【福井県】子育て世帯が、子どもを育てるにあたって、負担に思うことや困ったこと、不安に思うこと (出典:福井県「福井県子ども・子育て調査」(R6))



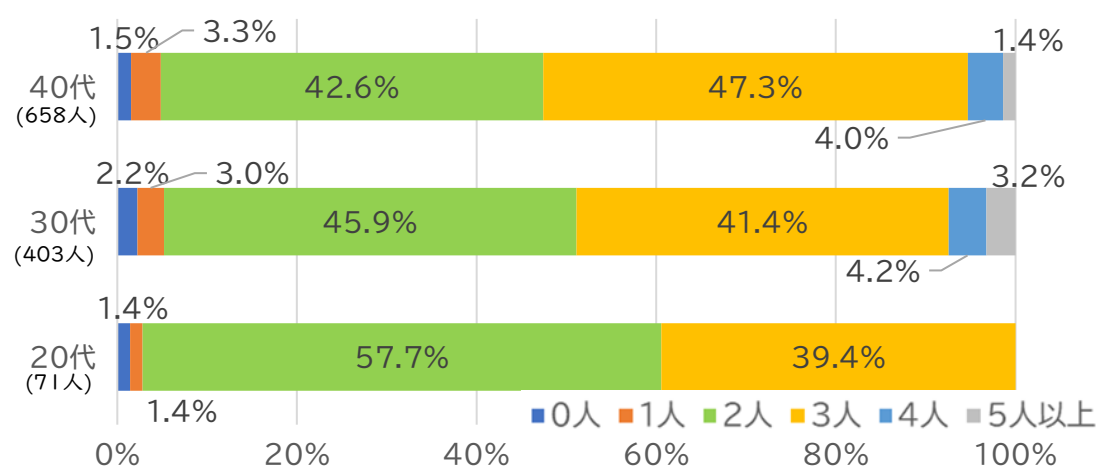
# 福井県の人口減少の現状分析【出生（理想の子の数）】

○既婚者に比べ、未婚者の方が子を持たないことを理想とする割合が高い。  
 ○理想の子の数は、40代では3人の割合が最も高いが、20代30代では2人の割合が最も高く、理想の子の数の主流が3人から2人に移りつつある。  
 ○子の数の理想と現実について、（出産がひと段落ついた方も多い）40代で見ると、4割が理想がかなえられておらず、特に理想3人以上になると半数以上が理想がかなえられていない。  
 →未婚者に対し、子を持つことの良さを伝えるとともに、既婚者が、夫婦の希望する子の数を実現できる環境づくりが重要

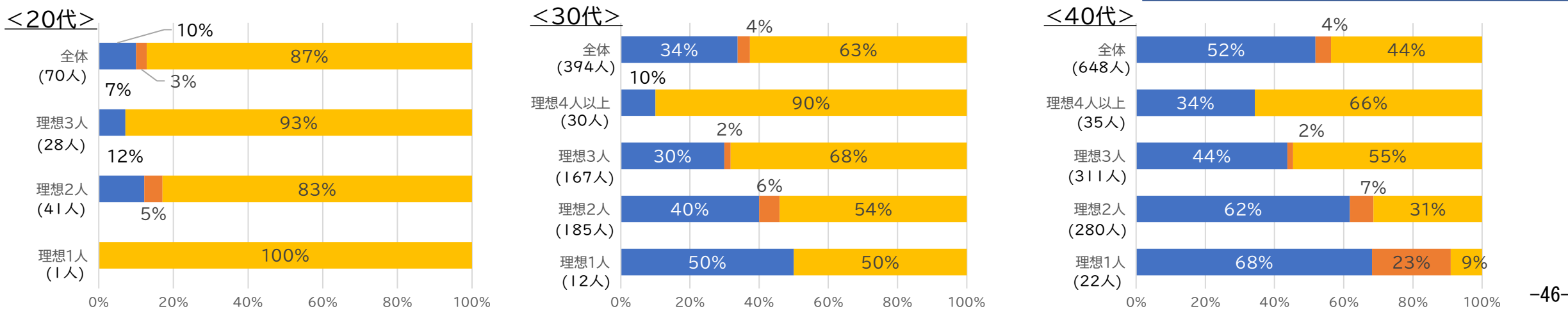
①【福井県】未婚者の理想とする子の数、年代別



②【福井県】既婚者の理想とする子の数、年代別



③【福井県】既婚者の理想とする子の数と現実の差、年代別



# 福井県の人口減少の現状分析【出生（理想の実現）】

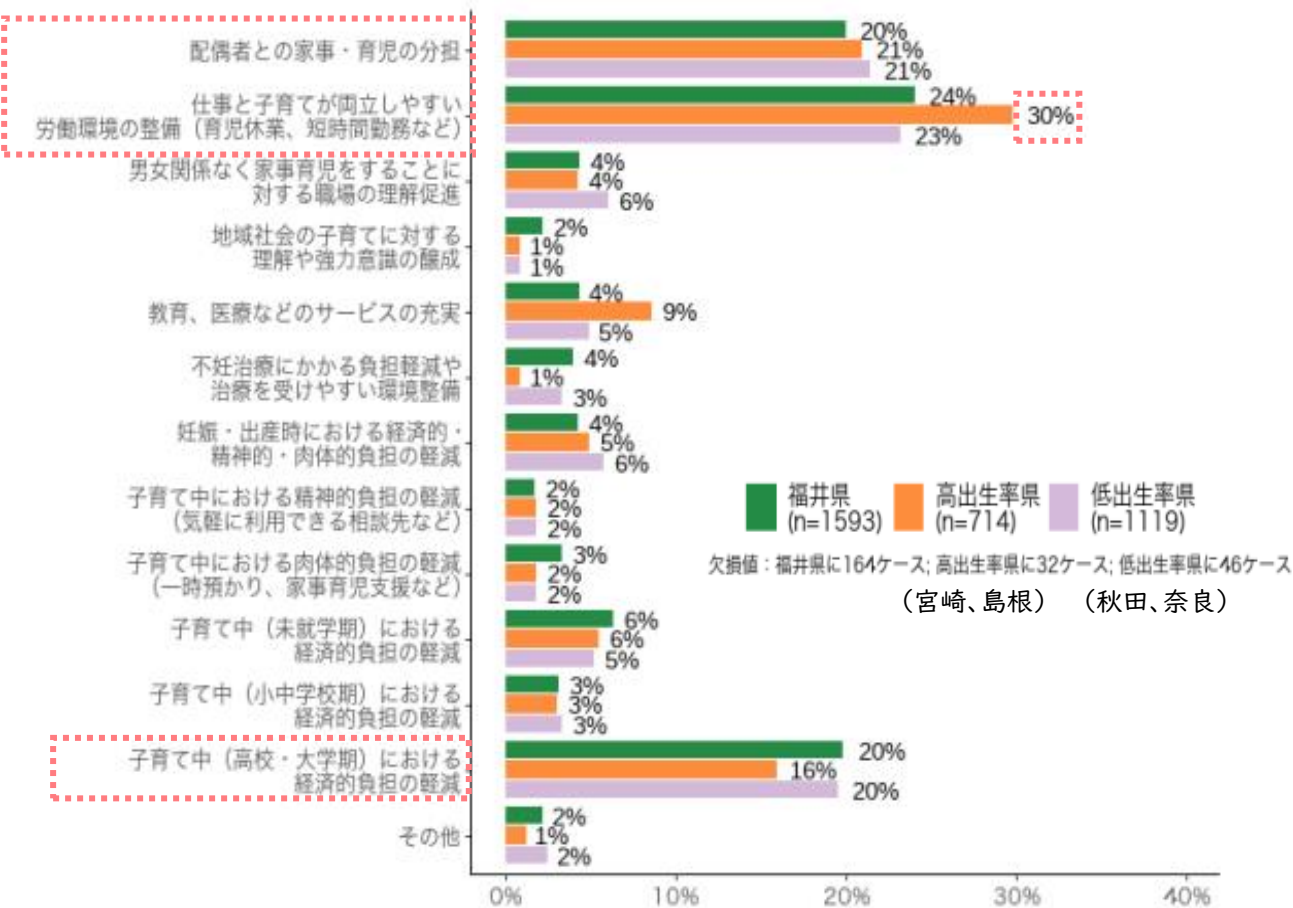
○理想の子の数の実現に向けて、仕事と子育てを両立しやすい環境や家事・育児の適切な分担を求める意見が多く、特に出生率の高い自治体では、仕事と子育ての両立が重要と考える傾向が他に比べて強い

○県内では、女性のほうが仕事と子育てを両立しやすい環境や家事・育児の適切な分担を求める意見が多い。

→ 理想の子の数の実現のためにも、男女ともに、家庭で過ごす時間を増やすための労働環境改善や家庭と仕事の両立支援が重要

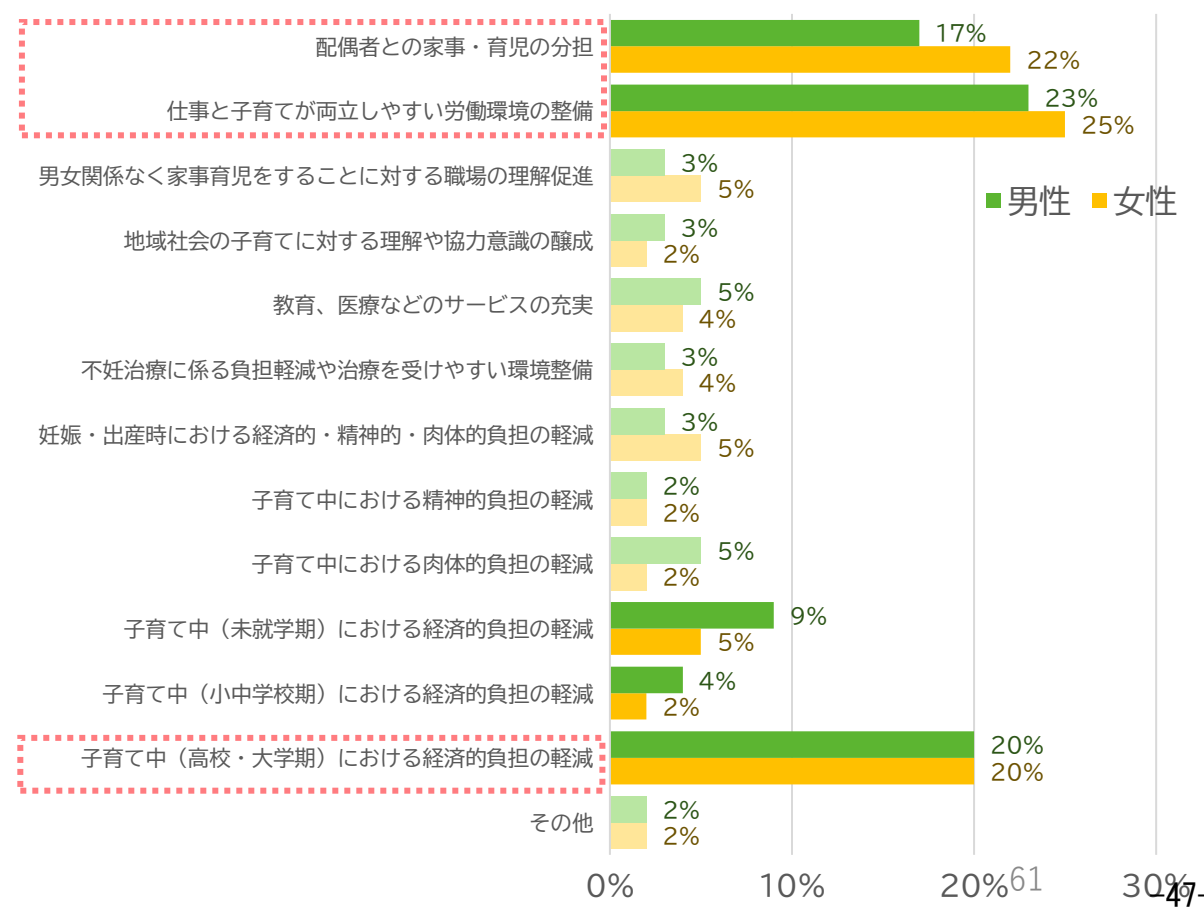
## ①【全国比較】理想とする子の数を実現するために必要なこと

(出典:福井県「福井県子育て意識調査」(R5))



## ②【福井県】理想とする子の数を実現するために必要なこと

(出典:福井県「福井県子育て意識調査」(R5))



# 福井県の人口減少の現状分析【出生（労働環境・女性の働きやすさ）】

- 子育て世代女性の働きやすさについて、民間シンクタンクの研究によると福井県は全国上位である一方、**男女間賃金比率と女性管理職比率が全国下位**である。
- 都道府県別の**男女間の賃金差は、男性の給与水準の高低に依存**。また、業種により賃金格差がみられ、本県の場合、「金融・保険」業の格差が大きい一方、専門性の求められる「情報通信業」などでは格差は小さい。
  - **女性の専門能力を高め、男女のバイアスない適正な人事評価システム**を導入することにより、男女間の賃金格差縮小につながる。
- 女性が管理職になる上での課題は、家事・育児・介護の負担が大きいこと** → **家事・育児等への負担軽減が重要**。

## ①【福井県】子育て世代の女性の働きやすさ指標

(出典: 浜銀総合研究所「都道府県別「子育て世代の女性の働きやすさ指標」」)

- ・福井県は客観的指標上の子育て世帯の働きやすさは上位である
- ・女性管理職比率と男女間賃金比率が全国下位

順位	都道府県	働きやすさ指標	学童保育登録率	保育所定員率	三世代同居率	男性の家事育児負担率	男性の長時間労働者比率	男性の育児休業等利用率	女性の正規雇用比率	女性管理職比率	男女間賃金比率	子育て世代の女性の有業率(%、参考)
1	高知県	1.16	31	1	36	2	6	23	5	3	3	84.9
2	鳥取県	1.06	4	8	7	23	8	22	10	1	5	88.3
3	島根県	0.93	11	6	9	3	4	12	9	39	10	87.3
4	秋田県	0.87	3	2	4	13	3	36	4	26	24	86.2
5	青森県	0.86	6	9	11	18	13	19	24	4	1	83.6
6	<b>福井県</b>	<b>0.84</b>	<b>16</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>5</b>	<b>7</b>	<b>11</b>	<b>7</b>	<b>34</b>	<b>35</b>	<b>88.2</b>
7	富山県	0.76	15	5	5	30	2	4	3	44	17	87.1
14	東京都	0.10	41	37	47	36	35	1	1	23	33	82.7
16	石川県	-0.02	18	7	18	47	28	18	8	41	19	86.1

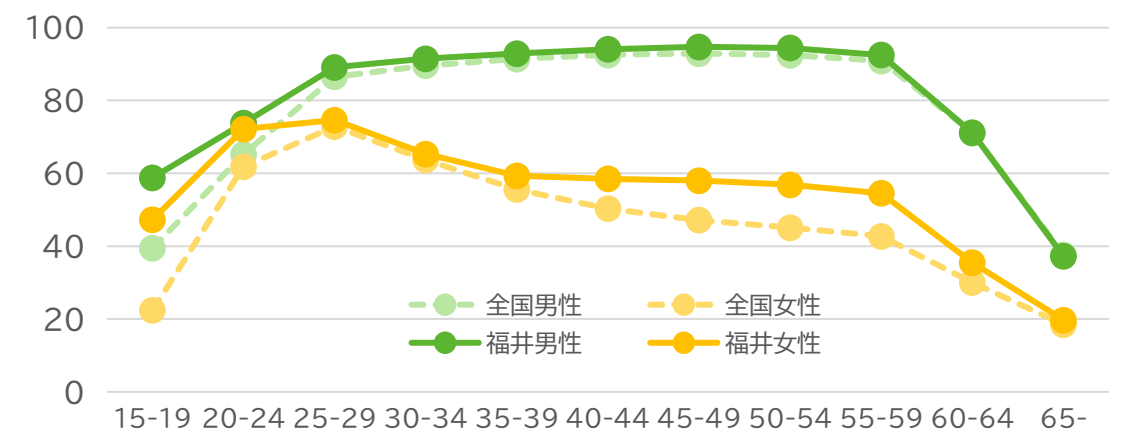
## ②【福井県】男女別正規・非正規労働者の人数 (厚生労働省「毎月勤労統計調査・5人以上」)

・女性は、フルタイム勤務よりも、パート・アルバイト(短時間勤務)に就労する割合が高い。

	男性	女性	合計
一般(正規)労働者	13.0万人	8.6万人	21.6万人
パート・アルバイト	2.6万人	6.7万人	9.4万人
合計(常用労働者)	15.6万人	15.4万人	31.0万人

## ③【福井県】年齢階級別正規雇用比率の推移 (出典: 総務省「国勢調査」(R2))

・本県の女性の正規雇用比率は25-29歳をピークに低下するも、全国平均と異なり40代以降フラット化。女性の高い就労意識がうかがえる。



## ④【福井県】女性管理職になることの課題 (出典: 福井県「県民意識調査」(R2))

・福井県女性にとって、家事・育児・介護の負担が大きいことが管理職のなる上での最大のハードル

